

かながわ読書のススメ

「取組事例ガイドブック」

～子ども読書の推進に携わるすべての方へ～



令和7年3月

神奈川県教育委員会

目次

1 家庭における読書活動の事例（4事例）		
○家庭における取組		
家族をつなぐ読書のススメ【ファミリー読書】	家庭での取組	…P 2
ブックスタート事業【ブックスタート】	横須賀市立中央図書館	…P 3
セカンドブック事業【読書機会の提供】	南足柄市生涯学習課	…P 4
ファミリー読書の日の啓発活動【ファミリー読書の日】	大井町図書館	…P 5
2 地域における読書活動の事例（21事例）		
○市町村立図書館・公民館における取組		
勇者うちドックの冒険【夏休み読書チャレンジ】	大和市立図書館	…P 7
ブックトークの会「つじねこクラブ」【ブックトーク】	藤沢市辻堂市民図書館	…P 8
子ども読書まつり～小中学生による読み聞かせ～【読み聞かせ】	湯河原町立図書館	…P 9
こどもとしゃかんまつり【地域・学校連携】	相模原市立相模大野図書館	…P10
調べることの楽しさを学ぼう！【調べ学習の基礎講座】	小田原市図書館	…P11
読書マラソンでゴールをめざそう！【読書マラソン】	厚木市立中央図書館・公民館図書館	…P12
いつでも本に戻れるように！【本に親しむ環境づくり】	開成町子ども読書活動推進委員会	…P13
移動図書館「きつつき号」【読書機会の提供】	箱根町社会教育センター	…P14
みんなの本箱町中に（どこでも図書館プロジェクト）【地域における読書活動】	うみとやまのこどもとしゃかん	…P15
シリウス図書委員会 Blue Starsの活動【図書館の図書委員会】	大和市立図書館	…P16
みんなで作る私設図書館「池子やまとしょつ」【私設図書室運営】	逗子市立池子小学校区住民自治協議会	…P17
市内小・中学校の児童生徒への電子図書館サービス【デジタル図書の貸し出し】	秦野市立図書館と秦野市教育委員会	…P18
ティーンズ向けフロアの整備と活用【ティーンズ向け】	海老名市立中央図書館	…P19
くるくるとしゃかん【子ども読書資料循環制度】	相模原市の図書館	…P20
「りんごの棚」の設置【多様な子どもたちの読書機会】	平塚市中央図書館	…P21
こども4コマ漫画ファクトリー【イベント】	藤沢市総合市民図書館	…P22
フロンターレ選手と本を楽しもう！【おはなし会】	川崎市立図書館	…P23
YA大賞 2024【YAサービス】	相模原市立橋本図書館	…P24
ぬいぐるみのおとまり会 イン大磯町立図書館【図書館と本への関心】	大磯町立図書館	…P25
夏休み宿題応援ブックトーク【ブックトーク】	茅ヶ崎市立図書館と茅ヶ崎市博物館	…P26
さむかわジュニア司書の育成【ジュニア司書】	寒川町総合図書館	…P27
3 学校等における読書活動の事例（23事例）		
○幼稚園・子ども園の取組		
お話いっぱい【読み聞かせ】	平塚市立ひばり幼稚園	…P29
自分たちでつくる発表会～絵本をもとにした創作劇～【創作劇】	中井町立なかいこども園	…P30
誕生日会 保護者による読み聞かせ【読み聞かせ】	清川村立清川幼稚園	…P31
○小学校の取組		
図書委員会による読書週間＆読み聞かせ【委員会活動・読書週間】	秦野市立西小学校	…P32
読みたい本がいつもある 読書の日常化・習慣化を目指した「読書生活シート」の開発 【読書生活シートの開発】	横浜市立川上小学校	…P33
先生たちの「おすすめ本」紹介と読み聞かせ【ブックバイキング】	大和市立柳橋小学校	…P34
行列のできる学校図書館 「学校図書館は情報発信基地～1日1SDGsを合言葉に～」 【学校図書館運営】	横浜市立本牧南小学校	…P35
良書と出あう、100さつの本運動【読書案内の冊子】	精華小学校	…P36
すべての教室がおはなしの部屋に！【読書週間】	関東学院小学校	…P37
「わたしの本」小学校新1年生に届けます【サードブック事業】	山北町	…P38

○中学校の取組		
卒業前のブックトーク【ブックトーク】	藤沢市立大庭中学校	…P39
座間市中学生POPコンクール 2024【POPコンクール】	座間市中学校・市立図書館	…P40
図書委員会による読書活動推進企画【文化祭・学級でのビブリオバトル】	藤沢市立高倉中学校	…P41
図書委員会による読書活動推進の取組【読書活動推進】	大和市立下福田中学校	…P42
○中・高等学校の取組		
生徒主体の図書室づくり【委員会活動】	湘南学園中学校高等学校	…P43
高校生による園児への読み聞かせ【読み聞かせ】	相模女子大学中学部・高等部	…P44
○高等学校の取組		
文化祭図書委員会参加企画「多言語による絵本読み聞かせ」【読み聞かせ】	県立横浜国際高等学校	…P45
図書委員によるオススメ本を紹介するビブリオバトル 一番読みたくなった本はどの本？【ビブリオバトル】	向上高等学校	…P46
外部団体と連携した図書館企画展【企画展示】	県立三浦初声高等学校	…P47
選書ツアーの開催【選書ツアー】	県立川崎高等学校	…P48
図書委員会主催の読書会【読書会】	県立西湘高等学校	…P49
○特別支援学校の取組		
読書に親しむ機会の提供【読書機会の提供】	県立平塚ろう学校	…P50
熱く盛り上がった きたつな読書週間【個に応じた読書活動】	横浜市立北綱島特別支援学校	…P51
4 専門・関係機関及び団体等における読書活動の事例（8事例）		
○専門機関の取組		
世界の絵本 多言語読み聞かせイベント【読み聞かせ】	あーすびらざ 映像ライブラリー	…P53
「文豪ストレイドッグス」「文豪とアルケミスト」とのコラボ【コラボ企画】	神奈川近代文学館	…P54
○企業等の取組		
中学生向けビブリオバトルのワークショップ【ビブリオバトル】	株式会社有隣堂（横浜市山内図書館）	…P55
小学生向け創造性を育む「本の楽しみかたカード」のワークショップ 【読書の秘訣カード】	株式会社有隣堂（横浜市山内図書館）	…P56
こどもがこどもに紙しばい道場【紙芝居】	株式会社有隣堂（小田原駅東口図書館）	…P57
学校と地域の書店との連携「SDGs 絵本の読み聞かせ会」開催 【企業と学校の連携】	株式会社北野書店と川崎市立平間小学校	…P58
○大学等の取組		
ファンタスティック☆ライブラリー・112 おはなし会【おはなし会】	鎌倉市図書館と鎌倉女子大学	…P59
○団体の取組		
絵本とわらべ歌は文学の入り口【おはなし会・読み聞かせ】	おはなしキャンドル	…P60
やってみよう		
ビブリオバトル		…P62
読書の秘訣カード		…P63
ブックトーク		…P64
POPコンクール		…P65

1 家庭における読書活動の事例

- ① 家族をつなぐ読書のススメ (家庭での取組) P2
- ② ブックスタート事業 (横須賀市立中央図書館) P3
- ③ セカンドブック事業 (南足柄市生涯学習課) P4
- ④ ファミリー読書の日の啓発活動 (大井町図書館) P5



家族をつなぐ読書のススメ

1 活動の概要

家族で、映画鑑賞後に原作本を読み、感想を交わし合う。このほか、音楽やスポーツ、学校生活や部活、家族旅行など、常日頃同じ生活空間で、ともに過ごしているからこそ、共有できる話題を読書につなげる。

2 活動の状況、実際

【家族での取組】

- ①家族で映画鑑賞をする。
- ②原作本や関連本を読む（読み合う）。
- ③感想を交流し合う。

①～③を行うことで、家族でのコミュニケーションのきっかけになる。また、同じ空間で本を読むと、より読書習慣が図れるようになる。

さらに、家族が集まる空間に本を置くことにより、本がすぐそばにある環境を作り出し、「本を読もう。」という気にさせる。

子どもは、大人が言ったように、思っているようには動かないことが多い。大人が、本に親しむ姿勢や本が身近に感じられるように工夫をすることで、読書への興味・関心を高めるきっかけとなる。

映画鑑賞だけでなく、ドラマ、スポーツやテーマパークへ行った後など、様々なことに関連付けて、読書へとつなげていくことも考えられる。

実際に、撮影場所をめぐったり、作品のモチーフになっている場所を訪ねたりして、子どもがより興味がわくような様々な工夫した取組をすることもできる。



家族共有の本棚
(映画の原作本や関連本が収められている。)

3 参加者、指導者のコメント



保護者

家族でのコミュニケーションのきっかけにもなり、家庭内での読書習慣の形成が図れるようになった。



子ども

心に残った映画は、家族で感想を話すことで、原作本も読んでみたくなった。

ブックスタート事業

1 活動の概要

横須賀市では、乳児がはじめて本と接する機会をつくることを目的として、2002年（平成14年）から図書館が事務局となり、3～4か月児健診時に赤ちゃんと保護者に※ブックスタートパックを渡し、読み聞かせを行っている。

ブックスタート時（乳児期）と義務教育時期（学童期）をつなぐ事業の実施が課題であり、課題解決の一つとして、2018年度（平成30年度）から、3歳児へのブックリストの配付も実施している。

※ブックスタートパック…絵本2冊・おすすめ絵本リスト・イラストアドバイス集、図書館利用案内などがセットになって入っている。絵本は定期的に変えている。

2 活動の状況、実際

【ブックスタートの会場数】

- ・横須賀市内で4か所。

【読み聞かせをする人】

- ・ブックスタートボランティアに所属している方々。

【子どもの反応】

- ・子どもによって様々であり、声を出して笑う赤ちゃんもいれば、泣き出す赤ちゃんもいる。



会場入口



読み聞かせ会場の様子



ブックスタートパックの絵本

3 参加者、指導者のコメント

【指導者（主催者）】

各図書館で実施している幼児向けおはなし会は、年々関心が高まっており、参加者の増加に結びついている。

【参加者】

絵本と一緒に図書館での催しの日程表ももらい、参加したいと思った。



セカンドブック事業

1 活動の概要

「セカンドブック」はブックスタートのフォローアップ事業です。ブックスタートで始まった絵本との関わりをさらに継続していくため、市内在住の3歳児に絵本を配付し、本を通して親子でふれあう機会を提供するとともに家庭での親子の読書活動や子ども自身が読書の楽しさを知るきっかけをつくり、自発的な読書活動につなげることを目的としている。



2 活動の状況、実際

【対象】 3歳児

【作品】 「からすのパンやさん」ほか4冊

【内容】

3歳ごろは、人生の中で最も絵本を楽しむことができる「読み聞かせの黄金期」と言われている。言葉を覚える時期でもあり、1冊聞き通す力も備わる時期でもある。この時期に読書の習慣を身につけ、より一層親子の絆を深めていただきたいとの思いで、毎月、子育て支援拠点施設「にこっと」で行われている3歳6か月健康診査時に出向き、子ども自身で選んだ本をプレゼントしている。

また、絵本配付時には「おはなしボランティア」による読み聞かせコーナーを設け、ビック絵本などで読み聞かせを実施している。



3 参加者の声

【保護者の声】

- ふだんあまり絵本を読むことがないので、この機会に読んであげたいと思った。
- 家や園にない本に触れあうことができた。
- 絵本を買うことがなく、いつも図書館に借りに行っているが、無償でいただくことができて嬉しかった。
- 健診の案内の中に今日もらえる絵本の紹介をしてくれていて、事前に親子で選ぶこともできてよかった。



ファミリー読書の日

1 活動の概要

大井町では令和4年度から毎月第1日曜日を「おいファミリー読書の日」としている。読書の習慣を伝えるだけでなく、家族みんなで読書に親しむ時間をつくることで、テレビやインターネットなどから離れ、家族のコミュニケーションを深めていくことも目的としている。

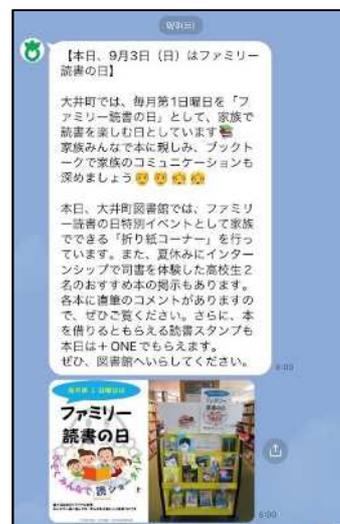
これまでも町では、県が取り組むファミリー読書の日について町民に広めていたが、なかなか周知ができていないのが現状であった。令和元年度に町内幼稚園・保育園の保護者にアンケート調査を行ったところ、認知度はたった3%だった。そこで、大井町図書館を中心に社会教育委員と連携し、大井町らしいファミリー読書の日



ファミリー読書の日

2 活動の状況、実際

- 図書館の催し…毎月第1日曜日に図書館にのぼり旗を立て、「家族で楽しめる折り紙コーナー」を設置している。
- ポスターの掲示…社会教育委員が独自のポスターを作成した。町内の幼稚園や保育園、小中学校、公共施設等に掲示している。
- SNS等による通知…町広報誌での掲載の他、当日の朝、町公式のLINEやFacebookを使い、大井町図書館の案内とともにファミリー読書の日
- イベントの実施…令和4～6年には、町の文化祭などにおいてファミリー読書の日を啓発するための特別なおはなし会を、読み聞かせボランティアが図書館で実施した。近くの公園に遊びに来ていた家族などに社会教育委員が声をかけ、多くの方が参加している。



当日の8:00にLINEで通知

3 参加者、指導者等の声

- ・【社会教育委員】ファミリー読書の啓発に向けて取り組んで3年になるが、自分自身も読書を楽しむきっかけになっている。特に、イベントで読み聞かせを行ったときには、子どもが喜んでくれてとても嬉しかった。
- ・【図書館職員】毎月第1日曜日に、図書館内に折り紙コーナーを設置することで、本を見ながら親子で折り紙を楽しむ様子が見られる。親子で夢中になって取り組んでいる姿は微笑ましく、ファミリー読書の日
- ・【参加者の保護者】町のイベントで子どもが選んだ本を読み聞かせしてもらえて、とても嬉しそうだった。上手な読み聞かせではなかったが、これまでそういう読み聞かせはなかったので、とても新鮮だった。



社会教育委員が町のイベントで読み聞かせ

2 地域における読書活動の事例

- | | |
|----------------------------|--------------------------------|
| ① 勇者うちドックの冒険！ | (大和市立図書館) P7 |
| ② ブックトークの会「つじねこクラブ」 | (藤沢市辻堂市民図書館) P8 |
| ③ 子ども読書まつり～小中学生による読み聞かせ～ | (湯河原町立図書館) P9 |
| ④ こどもとしょかんまつり | (相模原市立相模大野図書館) P10 |
| ⑤ 調べることの楽しさを学ぼう！調べ学習の基礎講座 | (小田原市図書館) P11 |
| ⑥ 読書マラソンでゴールをめざそう！ | (厚木市立中央図書館・公民館図書館) . . . P12 |
| ⑦ いつでも本に戻れるように！ | (開成町子ども読書活動推進委員会) P13 |
| ⑧ 移動図書館「きつつき号」 | (箱根町社会教育センター) P14 |
| ⑨ みんなの本箱町中に（どこでも図書館プロジェクト） | (うみとやまのこどもとしょかん) P15 |
| ⑩ シリウス図書委員会 Blue Starsの活動 | (大和市立図書館) P16 |
| ⑪ みんなでつくる私設図書館「池子やまとしょしつ」 | (逗子市立池子小学校区住民自治協議会) . . P17 |
| ⑫ 市内小・中学校の児童生徒への電子図書館サービス | (秦野市立図書館と秦野市教育委員会) . . . P18 |
| ⑬ ティーンズ向けフロアの整備と活用 | (海老名市立中央図書館) P19 |
| ⑭ くるくるとしょかん | (相模原市の図書館) P20 |
| ⑮ 「りんごの棚」の設置 | (平塚市中央図書館) P21 |
| ⑯ こども4コマ漫画ファクトリー | (藤沢市総合市民図書館) P22 |
| ⑰ フロンターレ選手と本を楽しもう！ | (川崎市立図書館) P23 |
| ⑱ YA大賞 2024 | (相模原市立橋本図書館) P24 |
| ⑲ ぬいぐるみのおとまり会 イン大磯町立図書館 | (大磯町立図書館) P25 |
| ⑳ 夏休み宿題応援ブックトーク | (茅ヶ崎市立図書館と茅ヶ崎市博物館) . . . P26 |
| ㉑ さむかわジュニア司書の育成 | (寒川町総合図書館) P27 |



勇者うちドックの冒険！

1 活動の概要

大和市立図書館では、子どもたちに図書館を身近に感じてもらい、図書館の利用を促進し、家読（うちどく）の普及啓発を図るため、小学校の夏休み期間に読書企画を実施しています。令和6年度は、冒険をテーマに読書チャレンジ冊子を作成しました。エントリーした子どもたちは、市内図書館施設の本を読み、読んだ本と冊子を図書館カウンターに持参すると図書館のオリジナルグッズをもらうことができます。

2 活動の状況、実際

冊子のデザインは冒険をイメージさせるものとなっており、ゲーム感覚で楽しく参加できます。見開き5ページの冊子は5つのステージで構成されており、指定された本を読んだり、図書館に関するクイズを解いたりするミッションをクリアしていく過程で、様々な本と触れあうことができます。開始直後からたくさんの小学生が参加してくれました。

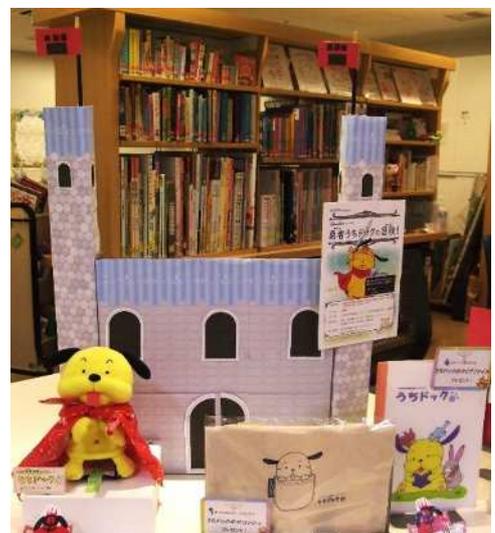


3 参加者、指導者等の声

【スタッフ】
「ストーリーとルールを説明する紙芝居を作ったことで、子どもたちが興味を持って、集中してエントリーの説明を聞いてくれました。」

【保護者】
「こんなに楽しそうに本を読んでいる姿は初めて見ました。」

【児童】
「ステージをクリアすると、スタンプを押してもらえて、表紙の装備がだんだんそろっていくのが楽しかったです。」



ブックトークの会「つじねこクラブ」

1 活動の概要

藤沢市では「すべての子どもが本に親しむことができるまち ふじさわ」の実現を目指し、様々な取組を行っています。「つじねこクラブ」は、平成23年にスタートした小学生向けのブックトーク（本の紹介）の会です。ボランティアとともに、年3回程度行っています。令和6年7月時点で36回目を迎えました。



2 活動の状況、実際

図書館に並ぶたくさんの本の中から子どもが読みたい本を選ぶのは難しい。大人が紹介してきっかけをつくったらどうだろう！こんな気持ちから活動はスタートしました。

毎回興味をひくようなテーマを決めて、1冊4分程度で本の紹介をしています。プログラムの中には長く読み継がれてきた本も入れています。子どもたちがイメージしやすいように大きな図を使ったり、クイズを取り入れた参加型にするなど、紹介する本の魅力を伝える工夫をしています。

3 参加者、指導者等の声



【参加者】
 「毎回テーマが面白いですね。」「ここで紹介された本を借りるために、貸出枠をあけてきました。」「ブックトークで紹介してもらった本を借りてきた子どもが、家で読んでとても感動していました。」



【ボランティア】 【指導者】
 「自分が紹介した本を子どもが目を輝かせて聞いているのを見ると毎回やってよかったと思います。」「この言い回しで子どもたちに伝わるかなど、リハーサルを重ねて原稿作成をしています。」

子ども読書まつり～小中学生による読み聞かせ～

1 活動の概要

湯河原町立図書館では、毎年12月に、湯河原町子ども読書活動推進協議会の事業として「子ども読書まつり」を開催している。複数の催しを組み合わせることで“まつり”とし、年度ごとにその内容は変わっているが、その中で小中学生による読み聞かせを取り入れている。これは、年の近い「お兄さん」「お姉さん」が読んでくれることによって、聞いている子どもたちが、よりお話の世界を身近に感じながら楽しく本と図書館に親しみ、本への関心を高めていくことを目的としている。

2 活動の状況、実際

〇令和6年度の「子ども読書まつり」では、その中で「いつでもおはなし会」と銘打って、「読書まつり」開催中は文字通りいつでもおはなし会を楽しめるように、午前10時から午後3時までに計10回のおはなし会を実施した。読み手は、町内の読み聞かせボランティアが主体だが、小中学生からも募集し、小学生2人と中学生3人が参加してくれた。

【当日の様子】残念ながら事前の練習はほとんど出来なかったが、小中学生は落ち着いた様子で、参加者の反応をみながら、表情も豊かに読んでいた。読んでいる小中学生も、読み聞かせを聞いている子どもたちも、お話の世界に入り込み、とてもあたたかく和やかな雰囲気となった。
今後も、小中学生による読み聞かせを事業に取り入れてゆきたい。



3 参加者、指導者の声

参加者



- おにいさん、おねえさんの声ということで親しみやすかったです。
- 一家三人で読んでいる紙芝居がほほえましく楽しかった。

指導者



少し緊張していたようですが、参加者のあたたかいまなざしや、幼児の笑顔を見て、リラックスして演じていました。

こどもとしょかんまつり

1 活動の概要

相模大野図書館では、近隣の中学校・高校と連携し、幼児～小学生を対象とした「こどもとしょかんまつり」を開催しました。子ども同士の交流や表現の場を実現することで、図書館の利用促進やYA（ヤングアダルト）サービスの活性化につなげることを目的としています。また、本に関する体験する場を提供することで、本をより身近に感じてもらいたいという願いもあります。



2 活動の状況、実際

近隣の中学校・高校の図書委員が、来場記念品（缶バッジ）配布やクイズ、製本体験、読み聞かせ、工作コーナー（しおりづくり）などの各ブースを担当し、会場である4階集会室に来た子どもたちを楽しませました。幅広い年代の子どもたちが交流する貴重な場となりました。



3 参加者、指導者等の声



【図書館担当者】
「開館前からイベントを目当てに
来ている参加者がいた。想定より
反響が大きくてよかった。ブース
担当として参加した生徒も、やり
がいを感じていたようだ。」



【ブースを担当した生徒】
「人が来るか不安だったけど、
思った以上にたくさんの人に来て
もらえてうれしかった。緊張
したけど楽しかった。」

調べることの楽しさを学ぼう！ 調べ学習の基礎講座

1 活動の概要

小田原市では、2016年度（平成28年度）から市内在住・在学の小学生を対象に「図書館を使った調べる学習コンクール」を開催しています。コンクールに向けて開催している「調べ学習の基礎講座」では、テーマ設定から本の探し方、調べ方、まとめ方等のポイントを学べるようにしています。講座では、調べ学習に取り組みやすいようワークシートを使いながら進めていきます。



2 活動の状況、実際

1 テーマを決める 2 本をさがす 3 調べる
4 調べたことをまとめる 5 使った本を記録する
といった順に、講座を進めていきます。図書館で調べたことをきっかけに、実験する、調理する、現場を訪れるといった、活動につながっています。



3 参加者、指導者等の声



【参加者】
「大変だったけど、楽しかった。」
「調べたらとても楽しかったので、またやってみたい。」



【指導者】
「この講座をきっかけに、本を使って調べることの楽しさを知ってもらいたい。」

読書マラソンでゴールをめざそう！

1 活動の概要

厚木市では、子どもの年齢・発達の段階に応じた読書活動の推進を行っている。小学生以下の子どもたちを対象とした取り組みとして、読書のきっかけづくりや読書意欲を高めることを目的とし、「こども読書マラソン」を開催している。厚木市立中央図書館、オンライン・ネットワークで結ばれた9つの公民館図書室、移動図書館わかあゆ号の利用促進にもなっている。



2 活動の状況、実際

参加できるのは0歳から小学生まで(保護者の代筆可)

1. 本の通帳とおすすめの本カードをもらう。
2. 読んだ本の題名などを本の通帳に書く。
3. 10冊ごとにプレゼントがもらえる。本の通帳をいっぱいにして、ゴールをめざす。
4. おすすめの本紹介カードは図書室等で掲示。



3 参加者、指導者等の声

【保護者】

「子どもに読み聞かせをした本の題名でも通帳に書けるので、成長の記録になります。ちょっとしたイラストを一緒に書くのも楽しみです。」

【子ども】

「プレゼントを全種類集めるのが目標。たくさん読もうって思う。」
「もうこれで6冊め。もっと読みたい。」



いつでも本に戻れるように！

1 活動の概要

開成町における読書活動の現状として、「ブックスタート事業」や「開成町ファミリー読書デー」、「電子書籍の活用(e-library)」、「読書活動イベントの開催」など、家庭や園・学校、町民センター図書館において読書活動を推進している。

令和3年に町内の小中学生を対象に、読書活動に関するアンケートを取った結果、「読書が好き」と回答した子が多くいるものの、学年が上がるにつれて不読率が高くなる傾向が明らかになった。また、成長とともに生活環境が変化し、本を読む時間を確保できないことも分かった。そこで、「本を読まなくなるのは、本が嫌いになった訳ではないため、きっかけがあれば再び本を読むのでは」と考え、本の楽しさを思い出し、いつでも本に戻れる環境づくり（子ども向けアプローチ・若者向けアプローチ・大人向けアプローチ）を行っている。



2 活動の状況、実際

【子ども向けアプローチ】⇒本の楽しさを知ってもらう

- ・どくしょつうちょう ・ブックスタート事業
- ・キッズライブラリー ・プレイパークで本を（図鑑等）
- ・児童書専門店「子どもの本箱」

【若者向けアプローチ】⇒他者とのコミュニケーションツール

- ・町図書室主催でポップづくりや帯づくり
- ・図書室内のレイアウトを若者向けにする工夫

【大人向けアプローチ】⇒深い学びをくすぐる

- ・大人向け絵本 ・ワークショップ「絵本セラピー」
- ・読み聞かせの様子を動画配信



「どくしょつうちょう」



「キッズライブラリー」

3 参加者、指導者等の声

- ・まずは、子どものうちに本の楽しさを知ること、そして、その気持ちを消さないことが大事です。子どもの頃に感じた「本の楽しさ」を思い出し、「本のよさ」に気付いて、いつでも本に戻れる環境づくりを目指していきたいです。
- ・読書をとおして「人との関わり方」を学んだり、「深い学びを実現」したり、「心を成長」させたりなど、様々な知識や経験を得ることができます。読書で得られるものは、歳を重ねても変わりません。世の中がどんなに変わろうとも、読書活動を大切にしていきたいです。



児童書専門店「子どもの本箱」

移動図書館「きつつき号」

1 活動の概要

箱根町は山岳地帯であり、町の図書室に行くのが難しい方々がいるため、自動車に図書を積んだ移動図書館「きつつき号」が町内を巡回して本の貸出を行っている。巡回箇所は、幼児学園・保育園・幼稚園や小・中学校、公民館、集会所、高齢者施設などの22箇所であり、5コースが設定され、2週間に1回（月2～3回）程度巡回している。貸出期間は、原則として次の巡回日まで（2週間）となっており、借りてから返すまで一つの場所で行うことができる。

巡回日や時間は、毎月発行されている「広報はこね」・「社会教育センターだより」や町・図書室HPに掲載され、職員おすすめの本の紹介とともに周知している。

2 活動の状況、実際

幼児向け絵本から、大人向けの図書まで約1,600冊を積載している。子どもたちには読書アンケートを取り、読みたい図書について希望が多かった図書を購入したり、予約カードで本のリクエストを募ったりと読書への意欲を高める工夫をしている。園や学校の図書室にない本がたくさんあるので、楽しみにしている子どもたちが多く、昼休みやお迎えの時間にブックバッグを片手に「きつつき号」へ向かう子どもたちが多くいる。

園や学校では、「きつつき号」が来ることで普段は本を読んだり借りたりしない子が読書への関心を高め、読書に親しむ姿が見られている。また、予定表への記載や放送での呼び掛けなど、園や学校との連携によって読書機会の提供が充実し、読書活動の推進につながっている。

3 参加者、指導者等の声

【子どもたちの声】

- ・「きつつき号」が来るのをいつも楽しみにしています。家に帰ってお気に入りの場所で読書するのが楽しみです。
- ・本は、好きな時に好きなものを読めるから好きです。「きつつき号」には家がない本がたくさんあるので家族のためにも借りています。

【職員・先生の声】

- ・子どもたちとふれあいながら本の貸出ができるのが楽しいです。これからも子どもたちが読みたい本をいっぱい積んで、「本がおもしろい」「本が大好き」という声をたくさん聞けると嬉しいです。
- ・本好きな子は多く、読み聞かせをすると集中して聞いてくれます。借りた本はお家の人に読んでもらったり、きょうだいで読んだりしている子がいて、本を通して家族での関わりが生まれているのを感じます。

移動図書館きつつき号巡回予定表
※巡回予定は変更になる場合があります。詳しくは社会教育センターにお問い合わせください。

場所	日時
箱根幼稚園	9:20～9:40
箱根町本会館	10:00～10:15
黒本菜屋	10:30～10:45
山崎集会所	11:00～11:15
箱根の森小学校	11/7(木) 11/21(木)
	10:05～10:20 10:20～10:35
大平台郷土館	13:50～14:05
宮ノ下駐車場	14:20～14:35
強羅西山公園駐車場	14:45～15:00
宮城野保育園	15:10～15:40
黒本小学校	12:50～13:20
役場本庁駐車場	13:30～13:45
黒本幼稚園	13:55～14:25
町社会福祉協議会	14:35～14:50
役場本庁駐車場	15:00～15:15
さくら園	10:45～11:00
宮城野公民館	11:10～11:25
箱根小学校	11/27(水)
	12:55～13:10
元祖館集会所	13:45～14:00
箱根集会所	11/13(水)・27(水)
	14:10～14:25
箱根小学校	11/1(金)
	12:40～13:00
アレクシメントウク農園 箱根 箱石原	11/15(金)・29(金)
	13:00～13:30
箱石原幼稚園	11/1(金)・15(金)・29(金)
	14:10～14:40
箱石原文化センター	14:55～15:10

巡回予定表（HP掲載）



みんなの本箱町中に（どこでも図書館プロジェクト）

1 活動の概要

葉山町を拠点に活動している「うみとやまのこどもとしゃかん」が、子どもたちの身近にあっていつでも本が借りられる「みんなの本箱」を設置。葉山町内には、郵便ポストのような小さな本箱が設置され、借りた本はどの本箱に返すこともできる。貸し出しカードは無く、返却期限もなければ貸し出し冊数の上限もない。借りるための手続きもないので、気軽に手に取りやすい。

自分の読み終わった本を入れることで、本を寄贈することもできる。本がなくなってしまうことも懸念されたが、本箱に入りきらないこともあるぐらい、本の冊数は少しずつ増えてきている。

2 活動の状況、実際

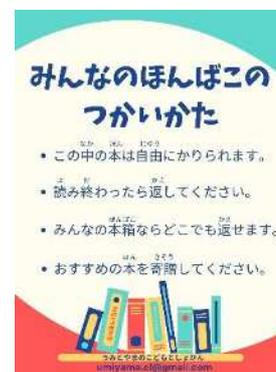
クラウドファンディングにより資金を集め、私有地に設置してもいいというオーナーには、本箱と本を提供し現在約 30 か所に「みんなの本箱」を設置することができた。

本箱の作成は、一般社団法人葉山の森保全センター（HFC）が担当し、葉山の森の間伐材を使用している。本の管理は、本箱を設置してくださる方（オーナー）にお任せしている。オーナー同士は、多くなってしまった本の移動や本箱の管理についての相談など、常に連絡を取り合える体制があり、楽しみながら取り組んでいる。

「みんなの本箱」の設置場所は、商店の前や民家の軒先などにあり、各種の SNS を利用し、MAP を公開し、周知を図っている。

図書館や学校の図書室と違い、「みんなの本箱」に入る本の数は限られている。だからこそ、自分の気になる本に目が留まりやすい。設置されている場所によっては、歴史物が多くなったり、児童書が多くなったり、本箱それぞれに自然と個性が出てきている。

本を通したコミュニケーションも生まれてきている。



3 参加者、指導者等の声

【本箱オーナーから】

- ・ 地域の中で本が動いていく様子が感じられて楽しいです。
- ・ 蔵書が多いのでたまにセレクトして本箱に入れたり、おすすめ本の紹介チラシを作って貼ったりしています。
- ・ 通りすがりの子供たちだけでなく、散歩中の大人も聞いてくださっているのをよく見ます。

【利用者から】

- ・ 本箱の前を通るとき、行きと帰りに立ち寄って本を選ぶのが楽しい
- ・ 見たことない本が入っていることがあるので、開いて見るのが楽しみ
- ・ 小さいころ読んでいた本を入れていて、それがなくなっていると小さい子が読んでくれているのかなと思って嬉しい。

シリウス図書委員会 Blue Starsの活動

1 活動の概要

2024年度(令和6年度)より発足した、愛称【Blue Stars】(シリウス図書委員会)は、初年度9名で活動をスタートをしている。基本的な活動日は、毎月第2日曜日のうち不定期月(主に15時～17時)で、広報誌『Prot☆staR～ティーンズ～』の発行を3か月に1回、年4回予定している。毎回、活動はにぎやかで、中高生の視点からアイデアや工夫がたくさん出ており、ティーンズ向けのコーナーやイベントの盛り上げに大きな一歩となっている。



2 活動の状況、実際

【活動内容】

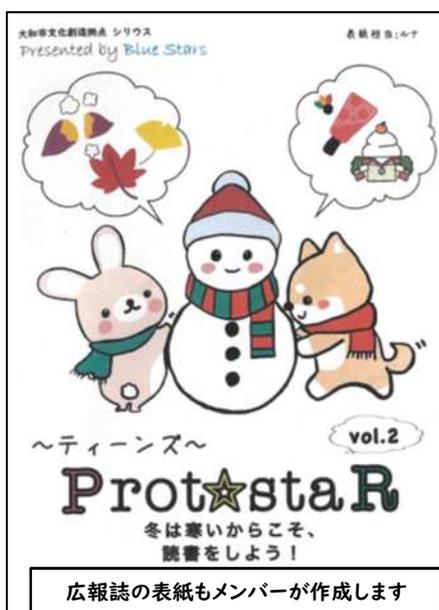
- ・ 広報誌作成
- ・ ティーンズコーナー作成
- ・ 中高生イベントの実施・参加(例:本のおみくじ)
- ・ 展示本の選書 など

【活動の実際】

委員の活動はペンネームを使っており、個人情報等の扱いにも気を配っている。今年度出てきた課題も踏まえ、今後は小・中学校や高等学校との連携も見据えて、持続可能な活動を検討していきたい。



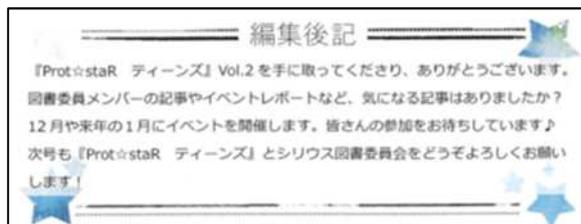
3 参加者、指導者等の声



広報誌『Prot☆Star (プロトスター) ティーンズ』作成をメインに活動をしてっていますが、メンバーみんなが楽しんで、自分の好きな記事を書いてくれていることがうれしいです。

図書館が好き、本が好き、絵を描くのが好き、文章を書くのが好き、というだけでなく、それらの好きを発信できる場としてシリウス図書委員会 Blue Stars を広く知ってもらえたらと考えています。

メンバーは随時募集中です!!



みんなで作る 私設図書室
「池子やま としょしつ」

1 活動の概要

「近くに図書館がないこの地域に、地域の子どもや大人が気軽に本と触れ合える場所をつくりたい」「読書だけでなく、地域のさまざまな世代の人が交流できる場所にしたい」と、地域の学校図書ボランティアと池子小学校区住民自治協議会が中心となり、逗子市の空き家活用制度「ふれあい活動の拠点整備支援」を利用して開設した私設図書室。

内装は、立ち上げのメンバー全員で一から整備し、子どもから大人まで安心して居られる場所となるよう工夫している。

蔵書については、様々な方面から譲り受けたり、助成金を活用したりして、少しずつ増やしている。選書も、図書ボランティアの経験を活かしながら、利用者に喜んでもらえるように行っている。



2 活動の状況、実際

丘の上の閑静な住宅街の一角に、ひっそりとたたずんでいる「池子やまとしょしつ」

2階建ての建物の1階の2部屋は交流室として地域団体の会合や飲食スペースとして活用でき、2階には子ども図書室とおとな図書室がある。絵本や児童書、実用書やマンガ、小説など、その場で自由に読むこともでき、借りて帰ることもできる。

また、保護者ボランティアが定期的に様々な楽しいイベントを企画し、地域コミュニティの拠点としての役割も果たしている。あくまで「としょしつ」がメインではあるが、子どもから大人まで、地域住民が自然と集まり交流できるすてきな居場所となっている。

毎週月曜日、水曜日の15時から17時まで利用が可能。常時お当番のボランティアが1～2人で子どもたちを見守っているため、子どもたちは安心して読書や遊んで過ごすことができる。



3 参加者、運営者の声



【スタッフの声】

○読書は自分の選択肢を広げ、生きる上で助けとなってくれるものです。利用者の皆さんにとって、この図書室がきっかけとなり、読書が身近なものとなってほしいです。より多くの方に活用してもらえることを願っています。

○ここは大人にとっても気分転換の場所になると思います。みんなが自然と集まりコミュニケーションが生まれる、そんな場所でありたいです。

【利用した子どもの声】

○お友達とおもちゃであそんで楽しかった。（6歳）

○ときどきあるイベントのおやつが美味しかった。（10歳）

○家の近くでおもしろい本やマンガがあってよかった。（11歳）

市内小・中学校の児童生徒への電子図書館サービス

1 活動の概要

コロナ禍の緊急事態宣言を受け、市立図書館も休館が続いていたが、利用者の読書をしたいたいという声からデジタル図書館サービスによる電子書籍を導入した。電子書籍導入をきっかけに、子どもの読書活動のさらなる推進を考えていた市教育委員会と連携し、市内小中学校在籍の児童生徒に向けて、アカウントの一斉配布が実現した。



電子図書館のアカウント配布は、令和5年度に市内の読書活動重点推進校の7校に向けて一斉付与したことから始まった。令和6年度にはさらに8校に配布し、今後はその他の学校を追加することで、市内の小中学校すべての児童生徒にアカウントを配布する。

2 活動の状況、実際

【対象】 秦野市立小中学校の児童生徒

【内容】 以前から学校に向けて団体貸出として数十冊の図書を貸し出ししていたが、電子書籍の導入後は、数千冊の本を一斉に貸し出すことができるようになった。



電子書籍の貸出期間は紙の書籍と同様に2週間とした。電子図書サービスを開始した当初は、児童書が少なかったが、現在は増えてきている。

また、人気のある書籍には100人以上の予約が入り、貸出されるまでに数年待ちといった状況にあった。令和5年10月には電子図書システムに児童向けの読み放題パックを導入し、人数制限なく希望者へ貸し出せるようになった。現在読み放題パックには約150冊の書籍を用意しており、毎年内容を変更し運用していく。

3 参加者、指導者等の声

【秦野市立図書館長】

電子書籍のメリットは、時間を気にせずいつでも本を貸し出すことができること。図書館へ来館することが難しい人も電子図書館サービスを利用して、時間や場所を気にせず読書に親んでもらいたいと思う。図書館に配架されているすべての書籍が、電子図書館で読めるわけではないが、このサービスがきっかけとなって、続編が電子書籍にないときには、来館して本を借りる人が増えてほしい。

また、これまで読書へ興味がない児童生徒でも、電子図書館のHPには複数の本の表紙を見ることができる。多くの表紙を見ることで本に興味を持ち、読書へつながることを願っている。

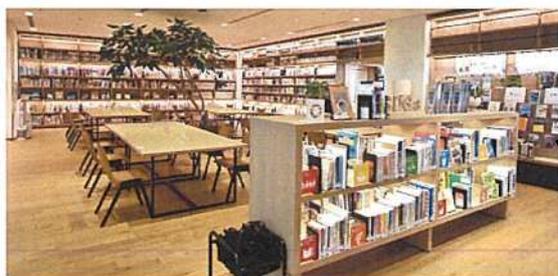
【秦野市教育委員会担当者】

本市では令和3年度より、毎月第一月曜は「よむよむDAY」とするなど、市内の各小中学校の主体性も生かしながら協働して読書活動の重点化を図ってきた。特に、電子書籍の導入に当たっては、図書館の全面的な協力を得て、教職員の多忙化につながらないように配慮するとともに、活用に意欲的なモデル校を公募し、特色ある学校づくりにもつなげている。モデル校の一つとなる小学校では、朝読書の時間に電子書籍を使っている児童が増えており、本に出会うきっかけの1つとして電子図書が有効に機能していると判断している。

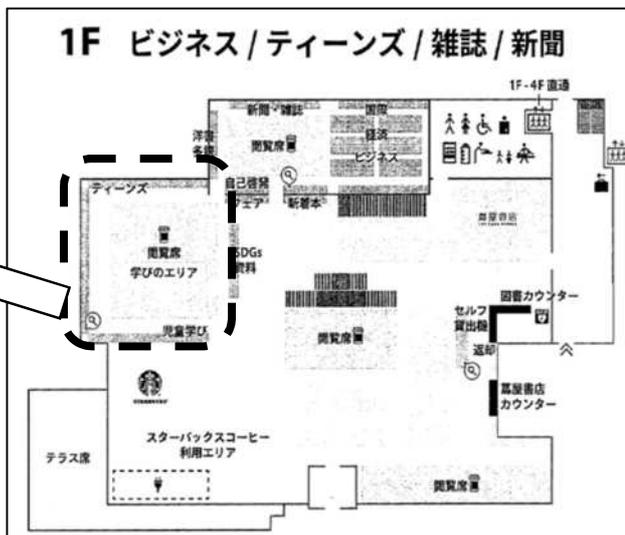
ティーンズ向けフロアの整備と活用

1 活動の概要

1F 学びのエリア



海老名市立中央図書館では、これまで4階のキッズライブラリーで児童書や絵本を中心に、イベントを開催してきた。1階の学びのエリアを整備した理由は、小学校中学年から中高生を対象とした学習資料を取り揃え、ティーンズ世代に図書館を身近に感じてもらうためである。学びのエリアでは学びのイベントだけでなく、トークイベントやワークショップも開催している。



学びのイベント 16:30～17:15

- 月 なりきりラボ 体験デザイナー 編
開催日：11月 11日, 25日 | 対象：小学生 | 定員：各6名
- 火 えいごの時間
開催日：11月 5日, 19日 | 対象：小学生 | 定員：各6名
- 水 多読の時間
開催日：11月 13日, 27日 | 対象：小学生 | 定員：各5名
- 木 社会の時間 平安文化 編
開催日：11月 14日, 28日 | 対象：小学生 | 定員：各6名
- 金 アートの時間
開催日：11月 1日, 15日, 29日 | 対象：小学生 | 定員：各6名

2 活動の状況、実際

- 学びのイベントでは、隔週で曜日ごとに講座を開催している。(45分) えいごの時間では、小学校低学年の児童が、英語に触れながらロールプレイをして、秋の味覚を買うお客さんと、店員の役を交代して取り組んでいた。子どもの居場所づくりだけでなく、保護者同士の交流の場にもなっていた。
- 対話型アート鑑賞会では、県立高校美術部の生徒さんと連携して、一緒にアートを楽しんだ。
- フロアの活用として、対象の年齢や集まってもらう工夫が、それぞれの活動で見られた。



3 参加者、指導者等の声

- 紹介した本をすぐに借りに来る生徒も多くいて、手ごたえがあったと感じた。
- 今すぐでなくても、人生困った時や悩んだときに、助けとなるような本があることや、地域にある公共図書館でも職員がみんなのことを待っていることを伝えられてよかった。
- 卒業後の生涯読書へつながるように、地域の公共図書館を紹介できてよかった。
- 子どもたちが、人生を数直線にとらえたら、まだまだ始まったばかりで、これからどんな本との出会いがあるのだろう、様々な本を読んでみたいなと思える機会になったと思う。

くるくるとしょかん

1 活動の概要

子どもの読書活動への関心を深める新たな取組として、2022年9月に開始。市立の保育園や児童クラブ・児童館・児童相談所・児童発達支援センターなどの子ども関連施設へ、図書館スタッフが選んだおすすめの本と「POP」を2ヶ月に一度程度届けている。



2 活動の状況、実際

118の子ども関連施設を27コースに分け、コース内で「おすすめ児童書セット」のコンテナを循環させている。各コースで循環するコンテナの数は12個程度あり、2ヶ月ごとに各施設間でコンテナを循環させると2年で一周するため、2年間は内容の異なる絵本や紙芝居等が読めることになる。また定期的に図書館にコンテナが戻るようにコースを組んでいるため、その際に資料の状態を確認して修繕や買い替えを行うほか、新たな資料を追加するなどの作業を行っている。

3 参加者、指導者等の声



【施設スタッフ】
「施設で新しい資料を購入する予算は少ないため、新しい資料を循環してもらえるのは大変助かる。」



【利用者】
「読める本がふえることはうれしい。」

「りんごの棚」の設置

1 活動の概要

「りんごの棚」は、スウェーデンの図書館で「すべての子どもに読書の楽しさを知ってもらうこと」を目的に始まった。平塚市では令和5年度から、障がい福祉課と中央図書館が連携事業を実施したことをきっかけに「障がいの有無にかかわらず、多くの方にバリアフリー図書について知ってほしい」という思いで、令和6年2月22日に設置した。

手話で楽しむ絵本、点字付きの絵本や、ピクトグラムなどを使ってどなたでも読みやすく工夫されたLLブック、マルチメディアデイジー図書など、多様な人たちが楽しめるバリアフリー図書を集めて配架した。また、リーディングトラッカーなどの読書を補助する道具も用意した。

「りんごの棚」にある本は、一部貸出不可の本もあるが、障がいの有無に関わらず借りることができる。



2 活動の状況、実際

中央図書館1Fのこども室に設置した「りんごの棚」。布で作られた絵本など、つつい手に取ってしまいたくなるような珍しい本もあり、様々な方に楽しまれている。今後は、さらに冊数を増やしていく予定である。

その隣には、様々な言語の絵本が並び、障がいの有無だけでなく、外国にルーツがある方にとっても利用しやすい環境になっている。



3 参加者、指導者等の声

【担当者】

「りんごの棚」を通して、一人でも多くの子どもたちに読書の楽しさを知り、本に親しんでいただきたい。「りんごの棚」のバリアフリー図書などを使ってみることで、様々な読書の方法があることを知っていただき、今まで読書が困難だと感じていた方にも、多くの本と出会い、読書を楽しんでもらえるよう願っている。

りんごの棚

はじめましたポ!

りんごの棚の本

ほかにいろいろな本があります

★りんごの棚ってなに?

りんごの棚はもともとスウェーデンという国で生まれた、「すべての子どもに読書の楽しさを知ってもらうこと」を目的にできた棚です。中央図書館ではこどもしつるのなかでできました。

★どんな本が置いてあるの?

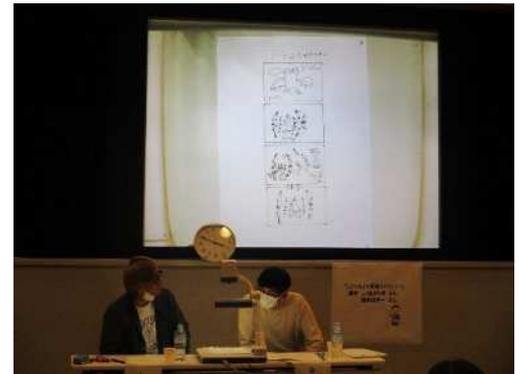
パソコンやタブレットを使って目と耳で楽しむ本
 大きい文字の本 手話で楽しむ絵本 布でできた絵本
 点字付きの絵本
 LLブック(やさしいことばなどで、わかりやすく書かれた本) など
 紙に印刷された文字を読むことが難しい人にも楽しんでもらえる本です。

平塚市中央図書館 2024.2

こども4コマ漫画ファクトリー

1 活動の概要

以前から、今まで図書館に来たことがない子どもをターゲットにしたイベントを開催したいという思いがあった。そんな中、漫画家の朝倉世界一先生、しりあがり寿先生とのご縁があり、4コマ漫画教室の企画が実現した。対象は、数時間で漫画を仕上げることができる小学3年生から6年生とした。



2 活動の状況、実際

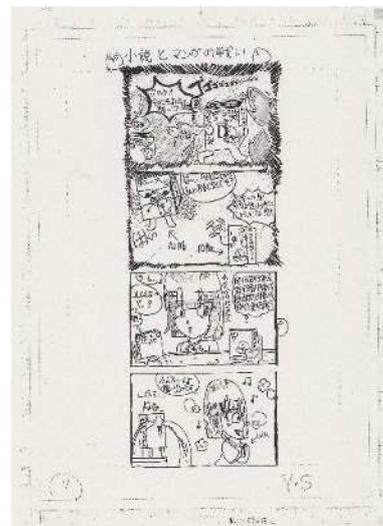
2時間半のワークショップで、メインは4コマ漫画の描き方を教わる。それに加えて、両先生に漫画家としての仕事についてもお話しいただいた。講義のあとには、参加者への個別のアドバイスをお願いした。参加者の持ち物は特になしとし、図書館側で道具や材料、実際に漫画家が使っているペンと紙、スクリーントーンなどを揃えた。お二人には大人のファンも多いため、ワークショップ終了後、YouTubeライブで座談会を行うことにした。座談会には、お二人の紹介者である、イラストレーターの安齋肇先生にもご参加いただいた。

3 参加者、指導者等の声



【参加者】

「しりあがり寿先生と朝倉先生の話が聞けて良かったです。何より、コツや描き方を分かりやすく教えていただき、たいへん貴重な体験ができて嬉しいです。」



た。【参加者】マンガをたくさんかけて楽しかった。アドバイスをもらえた。」

フロンターレ選手と本を楽しもう！

1 活動の概要

川崎市教育委員会では、幅広い年齢層へ向けて読書への興味を高め、読書活動を通じて青少年の豊かな人間性や社会性を育むことを目的に、平成21年度から川崎フロンターレと連携・協働しながら本事業を実施している。本事業では、市立図書館と現役選手による読み聞かせイベントを毎年一回実施するとともに、市立小学校では読書啓発のための人形劇と読み聞かせを実施している。

このイベントは、憧れのサッカー選手に本を読んでもらうことで、子どもたちが読書に対して興味関心を持つことを期待して行われている。

2 活動の状況、実際

川崎市中原区の商業施設「グランツリー武蔵小杉」を会場とし、川崎フロンターレ選手による絵本の読み聞かせや、読書に関するクイズコーナー、選手への質問コーナー、選手との写真撮影などを行った。イベントの参加者は47組であった。

3 参加者、指導者等の声

【利用者】
「開催日時、場所がとても良かった。」



【利用者】
「子どもが本を読むのが苦手でなかなか読まなかったが、選手が読んでいた本は何度も読んでいた。」

YA大賞 2024

1 活動の概要

YA世代から作品を応募してもらうことによって、図書館のPRを図る。また、募集した作品を図書館で発表することによって、多くのYA世代が図書館に来るきっかけを作ること、図書館員とYA世代の交流を図ることを目的としている。YAコーナーのPRと共に、YA世代の創作・表現の新たな場を作る活動である。



2 活動の状況、実際

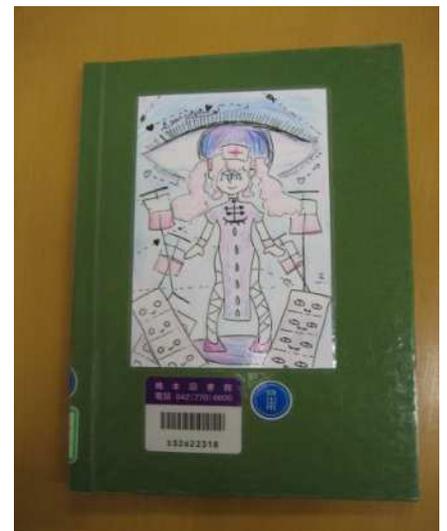
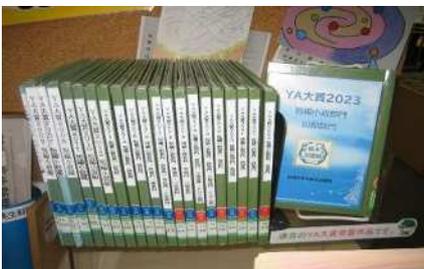
今年度は、「短編小説部門」「イメージアート部門」として、中・高生の書いたYouthful Ageコーナーにふさわしい未発表のオリジナル作品を募集した。また職員・スタッフおよびYD編集委員等により選考を行い、各部門において大賞1点を選出した。



3 参加者、指導者等の声

【運営者】

「今年度は応募作品が少なかったのが残念でした。今後の課題として、周知方法について検討が必要だと考えます。」



【運営者】

「YA大賞受賞作は製本して図書館の所蔵資料にしています。」

夏休み宿題応援ブックトーク

1 活動の概要

図書館と博物館が共催で、子どもの興味関心に合わせた夏休みの課題支援を行っています。図書館職員が、夏休みの調べ学習支援に重点を置いた選書のブックトークを行い、博物館職員は関連する事柄の解説等を行います。

会場には調べ学習に役立つ本を100冊以上展示し、イベント終了後に貸出をします。



図書館職員による
ブックトーク

2 活動の状況、実際

学校の協力を得てチラシを配布してもらったことで、受付開始から3日で定員に達することとなりました。図書館と博物館それぞれを会場にし、内容を変えて2日間実施。延べ68人の参加がありました。

令和6年度のテーマは、「海」。海に関する様々な本や、漂着物、魚の標本などの実物をお見せしました。また、図書館会場ではオンラインで博物館の展示紹介をし、博物館会場では、動画で図書館紹介をしました。



博物館学芸員による
展示紹介（オンライン）

3 参加者、指導者等の声

【担当者から】

ブックトークに加えて学芸員さんの解説や実物資料があることで、子どもたちは本により興味を持つようです。保護者の方も一緒に参加することで、家族みんなで本を読んだり、調べものをしたりするきっかけになるのだと感じました。（図書館）

夏休み期間中ということもあり、両会場ともに参加される方が数組いらっしゃいました。親子で博物館に興味をもっていたり、親子での博物館来館につながる事業となりました。（博物館）



【参加者から】

（紹介した本について）この本を持っていれば、プラスチックのこわさについて忘れた時、読んだら分かる！と思った。本がみんな面白く感じた。（小学生）

普段ゆっくり本を選んだり夏休みの宿題について考える機会が無いので、とても貴重な時間でした。地元のお話の海のお話が聞いて勉強になりました。海に行く機会がより楽しみになりました。（保護者）

さむかわジュニア司書の育成

1 活動の概要

子どもが図書館の仕事に触れながら司書の仕事や図書館の仕組みを理解し、図書館の効率的利用方法や本を人に紹介するスキルを身につけることによって、人と本を結びつける読書推進のリーダー役として地域で活躍できるよう育成することを目的にジュニア司書講座を 2016（平成 28）年度から開始した。小・中学生を対象に夏休みに育成講座を実施し、講座修了者を「さむかわジュニア司書」に認定している。コロナ禍の影響でジュニア司書活動も中断したが、2021（令和 3）年 10 月から活動再開、育成講座も 2022（令和 4）年度から再開した。年間を通じ、寒川総合図書館での本の企画展示の選書や POP 作成、子ども対象のイベントに携わってもらうなど、読書推進活動に取り組んでいる。



ジュニア司書が選書した本を POP と共に展示

2 活動の状況、実際

【対象】小学 4 年生～中学 2 年生

【さむかわジュニア司書講座】夏休み期間中に、必修科目「①図書館と図書館司書について」「②分類と検索」「③本のしくみと装備」「④レファレンス・相互貸借」の 4 回と、選択科目「展示・選書体験」「ミニビブリオバトル」「読み聞かせ講義と練習」の実習を 1 回以上受講でジュニア司書に認定する。

必修科目欠席者には後日補講を行うなど、子ども達の学び意欲を支援する対応も行っている。

【さむかわジュニア司書活動】令和 6 年度講座で認定された 6 期生 3 名が、4・5 期生 7 名とともに毎月図書館に集い、「土曜日おはなし会」の読み聞かせ実践、図書館・文書館体験ツアーの案内補助、図書展示の選書と POP や装飾作成、図書館まつり運営補助など様々な活動に取り組んでいる。



育成講座の講師は図書館スタッフが担当

3 参加者、指導者等の声

- 育成講座に参加した子ども達は積極的に発言し、メモを取るなど、意欲的な姿勢が見られた。認定式での 1 人ずつの感想発表してもらい、「POP づくりが楽しかった」「相互貸借の本を書架から探して引き抜きが楽しかった」「ブッカーかけが難しかった」などの司書業務への関心や意識向上が感じられた。
- 本のブッカーかけ作業や CD・DVD のケースを修理・交換を実習で行い、資料の修理も司書の仕事であることや、図書館の資料は多くの人を使うので、大切に扱ってほしいことをジュニア司書に伝えることができた。
- 夏休み期間中にジュニア司書や育成講座受講生がおすすめ本を図書館内に展示するために、選書と POP 作成を行った。展示コーナーには賑やかな POP が並び、展示期間中は貸し出される本が多く、成果が得られた。



ブッカーかけ作業

3 学校等における読書活動の事例

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| ① お話いっぱい | (平塚市立ひばり幼稚園) P29 |
| ② 自分たちでつくる発表会～絵本をもとにした創作劇～ | (中井町立なかいかども園) P30 |
| ③ 誕生日会 保護者による読み聞かせ | (清川村立清川幼稚園) P31 |
| ④ 図書委員会による読書週間&読み聞かせ | (秦野市立西小学校) P32 |
| ⑤ 読書の日常化・習慣化を目指した「読書生活シート」の開発 | (横浜市立川上小学校) P33 |
| ⑥ 先生たちの「おすすめ本」紹介と読み聞かせ | (大和市立柳橋小学校) P34 |
| ⑦ 学校図書館は情報発信基地～1日1SDGsを合言葉に～ | (横浜市立本牧南小学校) P35 |
| ⑧ 良書と出あう、100さつの本運動 | (精華小学校) P36 |
| ⑨ すべての教室がおはなしの部屋に！ | (関東学院小学校) P37 |
| ⑩ 「わたしの本」 小学校新1年生に届けます | (山北町) P38 |
| ⑪ 卒業前のブックトーク | (藤沢市立大庭中学校) P39 |
| ⑫ 座間市中学生POPコンクール 2024 | (座間市中学校・市立図書館) . . . P40 |
| ⑬ 図書委員会による読書活動推進企画 | (藤沢市立高倉中学校) P41 |
| ⑭ 図書委員会による読書活動推進の取組 | (大和市立下福田中学校) P42 |
| ⑮ 生徒主体の図書室づくり | (湘南学園中学校高等学校) P43 |
| ⑯ 高校生による園児への読み聞かせ | (相模女子大学中学部・高等部) . . P44 |
| ⑰ 文化祭図書委員会参加企画「多言語による絵本読み聞かせ」 | (県立横浜国際高等学校) P45 |
| ⑱ 図書委員によるオススメ本を紹介するビブリオバトル | (向上高等学校) P46 |
| ⑲ 外部団体と連携した図書館企画展 | (県立三浦初声高等学校) P47 |
| ⑳ 選書ツアーの開催 | (県立川崎高等学校) P48 |
| ㉑ 図書委員会主催の読書会 | (県立西湘高等学校) P49 |
| ㉒ 読書に親しむ機会の提供 | (県立平塚ろう学校) P50 |
| ㉓ 熱く盛り上がった きたつな読書週間 | (横浜市立北綱島特別支援学校) . . P51 |



お話いっぱい

1 活動の概要

平塚市立ひばり幼稚園では、園児の情緒の安定と豊かな感性を養うことを目的に、帰りの会で読み聞かせを実施している。

2 活動の状況、実際

本園では、絵本に触れる機会を多くもてるようにしている。帰りの会では、担任による読み聞かせを毎日のように実施している。その他にも、保護者ボランティアによる読み聞かせも行っており、毎月 1～2回読み聞かせの日を設けている。最近では、中学生の職場体験学習（今年度は7校）の中において読み聞かせの時間を設定し、年代層が違う人の読み聞かせを行っている。

園児たちは様々な人との触れ合いやコミュニケーションを図ることができ、読み手が違うことで想像力も広がり、より絵本に親しんでいけるのではないかと考えている。



保護者ボランティアによる読み聞かせ



職場体験での中学生による読み聞かせ

3 参加者、指導者等の声



園長先生より・・・保護者の協力で図書室の整備や図書の管理が進み、本の貸し出しがスムーズにできるようになった。季節の本や職員のおススメの絵本をポップなど使い、園児が「読んでみたい」と興味を抱き、気軽に手にとりやすい環境づくりを目指して取り組んでいきたい。

また本園はインクルーシブ教育を推進しているので、多様な子どもたちが絵本に親しめるようなコーナーを図書室や保育室内に設置できるように計画している。

保護者より・・・読み聞かせに行くと「今日は何の本？」と楽しみにしている様子がある。読み聞かせを通して子どもたちが様々な絵本に出会えるきっかけになれば嬉しい。

自分たちでつくる発表会 ～絵本をもとにした創作劇～

1 活動の概要

日常の教育・保育活動で行われている遊びや絵本の読み聞かせをもとに、園児が自分たちで発表会の内容を創作し、発表会につなげる活動を行っている。発表会の準備期間は、およそ1か月程度で、発表会は毎年、年長と年中の各クラスで1回開催している（年長が12月、年中が2月）。

2 活動の状況、実際

毎日の読み聞かせをもとに、発表会の劇の台本（セリフや動作）を園児たちが創作し、発表会につなげている。絵本をそのまま劇化することもあるが、令和6年度は『オオカミと7ひきの子ヤギ』、『ロボットカミィ』の2つの絵本のストーリーを混ぜ合わせ、『ロボットと9人の子どもたち』というオリジナル物語を創作し、発表した（3つの絵本を合わせる場合もあり）。

どの絵本をもとにするのか、どのようなストーリーにするのかなどは、すべて園児たちが話し合って決めている。どの創作劇も園児の思いや願いを大事にして活動を進めている。

【ストーリーを決める話し合いの様子（一部）】 T：先生 C：園児

T：今年の発表会は『ロボットカミィ』と『オオカミと7ひきの子ヤギ』の2つの絵本を合わせるまで決まったけれど、どうしようか？

C：オオカミをロボットに代えるといいと思う。

C：でも、そうしたらロボットは悪いままでお話しが終わっちゃうよ。本当のお話だと、最後はいいロボットになっていたよ。

C：じゃあ、最初はロボットがいじわるだけど、最後は「ごめんね」して仲直りするのどうかな？

C：ロボットは紙でできているから水をかけると、こわれるね。

C：じゃあ、悪いことしていたときに、水をかけて、それでごめんなさいして仲よくなるのどうかな？

C：それいいね！バケツに水色のスズランテープを入れれば水に見えるよ！

C：子どもが隠れる時計も作らないといけないね。7人だから大きくしなきゃ。

※先生は、ファシリテートに徹する。「どうする？」「どうしたい？」などと声をかけ、園児の発言を次々に引き出し、価値付けしていく。



創作劇に必要な衣装や小道具を作成する園児たち



「こんな感じでどうかな？」友達と関わりながら作ります



みんなのアイデアでセリフや動きを決めていきます

3 参加者、指導者等の声

- 自分たちの思いやアイデアをもとに創作劇（物語）ができあがっていくので、園児からは「次は～を作ろう！」「こんなセリフを入れたい！」という意欲的な声が聞こえ、主体的に取り組む姿がたくさん見られます。活動後には「楽しかった！」という満足感や達成感を味わっている様子も見られます。
- 発表会を上手にやり遂げることも大事ですが、それ以上にクラスのみみんなで発表会をつくりあげる過程を大事にしています。保護者には、創作劇ができあがるまでの園児の様子（ストーリーを相談する過程や小道具を製作する過程等）について、プレゼンテーションソフトを使って説明し、発表会本番に表れない部分の園児の頑張った姿もぜひ、認め、褒めてあげてほしいと声を掛けています。

誕生日会 保護者による読み聞かせ

1 活動の概要

清川村立清川幼稚園では、誕生日会に誕生月の園児の保護者による絵本の読み聞かせを行っている。

絵本の読み聞かせは、帰りの会などで毎日教師が実施しているため慣れ親しんでいるが、親子共に成長を感じるうれしい日である誕生日会で、保護者が子どもたちに行う読み聞かせは特別なお楽しみになっている。

2 活動の状況、実際

【読み聞かせをする人】誕生月の園児の保護者。

【対象】誕生月の園児の人数によってグループ分けを行い、全園児を対象に行う。

【絵本の選定】誕生月の保護者には事前に絵本の読み聞かせのお知らせを出し、絵本の選定をお願いする。

絵本は子どもの好きな本など各家庭のものでよい。また、幼稚園の本を貸し出しすることもできる。

【内容】誕生日会が終わった後、保護者のもとに異年齢縦割りグループごとに集まり読み聞かせを実施。

【園児の様子】誕生月の園児は、読み聞かせで幼稚園に持っていく絵本をお家の方と選ぶのを楽しんでいる。

誕生日会に自分の好きな本をみんなと共有できること、そしてお家の方が読み聞かせをすることがうれしく誇らしい様子である。

また他の園児も、友達のお家の方が読み聞かせをしてくれることにワクワクして聞き入っている。保護者にとっても、さまざまな園児とふれあう機会になっている。



3 参加者、指導者等の声

- ・子どもたちの前で読み聞かせをするのは本当に緊張したが、みんな楽しそうに聞いてくれてうれしかった。(保護者)
- ・みんなを前にしての読み聞かせはドキドキしたが、しっかり聞いてくれてほっとした。一緒に本を選んだ子どももうれしそうだった。(保護者)
- ・園児とのふれあいを楽しんでくださり、幼稚園にない絵本や英語の本の読み聞かせをしてくださる方もいて、園児にとってよい体験となり、読書への興味・関心をもつきっかけになっている。(幼稚園)

図書委員会による読書週間&読み聞かせ

1 活動の概要

秦野市立西小学校は、「読書が培う力」を育み、豊かな感性、情操、思いやりの心を育てるよう、読書活動の推進、環境づくりに努めている。とくに図書委員会を中心に、学期に2回の1、2年生への読み聞かせの活動や、6月に読書週間を設け、児童朝会で取組を紹介したり、給食時の放送で本をたくさん読む子にインタビューしたり、読書ビンゴ達成でしおりのプレゼントをしたりと、子ども同士のかかわりを大切に読書への関心を高めている。

2 活動の状況、実際

【6月読書週間の取組】



本を借りる子どもたちの姿でにぎわう学校図書館



プレゼントのしおりは図書委員の手作り

3 今後の取組、目標

西小学校では、図書委員会を中心とした児童の取組とともに、PTAクラブ「おはなしフォース」があり、1～5年生を対象に1か月に1回の読み聞かせを行うなど、児童・保護者とともに読書への関心を高める活動を行っている。

今後も、学校全体で読書から培う力を育み活動を推進し、継続した取り組みを行っていきたいと考えている。



子どもたちがおすすめ本を紹介するコーナーも

4 参加者、指導者のコメント

【PTA おはなしフォース（保護者）】

短い時間ではあるが、子どもたちに絵本を読むことで、私たちが元気をもらい、充実した時間を過ごすことができている。今後も一人でも多くの子どもたちに絵本に親しむきっかけを与え、絵本のすばらしさを伝えていけたらと思う。」

読みたい本がいつもある
読書の日常化・習慣化を目指した「読書生活シート」の開発

1 活動の概要



川上小学校では、言語活動の充実を重視したカリキュラム・マネジメントの推進に積極的に取り組み、教科学習における読書活動を核とする単元開発や、学校図書館の利活用を通じた授業改善が組織的継続的に行われている。

目指す子どもの姿として「常に読みたい本がある」「読みたい本の優先順位がある」「何度も繰り返し読みたい本がある」等を想定しながら、学校全体で、自立した読者の育成を目指している。

その取組の一環として、それぞれが読んだ本の記録をする「読書記録」としての機能だけでなく、これからの自分の「読書計画」につながる機能をもたせた「読書生活シート」を独自で開発し、活用している。

2 活動の状況、実際

実際の読書生活シートには、「年間のめあて」「振り返り」の欄の他に、日本十進分類表にそって記録された「読書記録」や「心に残った本」、次に読みたい本が記されている「読書計画」の欄などがあり、シートのデザインや記入事項も子どもたちが自由に構成できるなど、意欲的・計画的に取り組めるしかけが組み込まれている。

子どもたちはタブレット上で、読書履歴を記録したり、他者から紹介された本を読書計画に加えたりするほか、シートを媒介として友達と会話するなど、コミュニケーションツールとしても活用している。



▲ 高学年用「読書生活シート」例

3 参加者、指導者等の声



【校長先生の声】

○読書は目的ではなく「自分づくり」のための手段の一つです。この読書生活シートは「読書履歴」のようにこれまでの読書を振り返るだけでなく、これからの読書計画を立てる「前を向く」シートとなっています。今後「いつ尋ねても読みかけの本がある」子どもたちになってほしいと願っています。

【先生の声】

○読書が手段となり、クラスの枠を越えて、異学年同士の交流にもつながっています。日常的にお互いに本を薦め合う姿が見られるようになりました。
○この読書生活シートの取組は、子どもたちにとって「自分ってこういう人間」というように、自分自身の発見にもつながり、自分のことを知ってもらうツールにもなっています。



先生たちの「おすすめ本」紹介と読み聞かせ

1 活動の概要

11/1～11/8の読書週間の初日に実施した。学力学習状況調査や各家庭のアンケート結果から、家庭で活字に触れる機会が年々少なくなっていることから、学校で読書機会の確保を目指し取り組んでいる。学校図書館にある本の中から先生がおすすめしたい本を選ぶだけでなく、図書館司書が学年に応じた選書をしている。

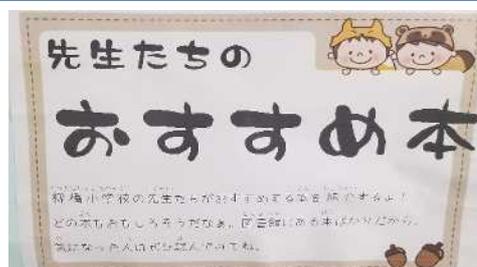
2 活動の状況、実際

【目的】

- 本への興味関心を育て、図書室へ足を運び、きっかけづくりをする。
- 日常の中で触れることのない本に出会い、多彩な本のジャンルに興味を持ち、読書活動の充実をめざす。

【方法】

- 朝の放送で、「先生たちみんなのクラスに、すてきな本をプレゼントしに来てくれます。教室で楽しみに待っていてください」開始される。児童はワクワクしながら、教室で先生が来るのを待っていた。
- 学級担任は異学年交流級を担当し、級外の先生の担当は、クラスをくじ引きで決定する。一クラスに2名の先生が行くこともある。



3 参加者、指導者等の声

各学年教室前には、国語や社会、総合的な学習の時間等、授業に対応した、たくさんの本が紹介されていた。

- 掲示しているおすすめ本の紹介コーナーで足を止めてじっくりと読んでいる児童が多く見られ、本に対する興味が広がったように感じた。
- 担任以外の先生から本を読んでもらえるのが新鮮なのか、どの子ども目を輝かせて読み聞かせを聞いていたのがよかった。
- 自分たちがあまり手に取らないジャンルに触れる機会があり良かったと感じた。
- 児童が様々な本に触れることで、自校の図書館に対して興味が湧いたり、「こんな本があったんだ！」と新しい発見をしたりすることができたと感じる。
- クラスの先生だけでなく、他のクラスの先生とも本に親しむことで、本を読んでみようという気持ちになった児童がいると思う。低学年は特に、そういう機会が増えたらいい。1学期に1回学年間で交換して本を読むなど、できたらよい。

行列のできる学校図書館

「学校図書館は情報発信基地～1日1SDGsを合言葉に～」

1 活動の概要

休み時間になると、廊下から児童の声が近づき、みるみるうちに図書館が子どもでいっぱい。イベントがある日は廊下にまで行列が続く学校図書館です。

図書館に行けば何かに出会える「学校図書館を情報発信基地に」を目指して、学校司書が子どもや先生、地域の方をつなぎながら、多くの取組を実践しています。

例えば、横浜市中区で開催された「なか区ブックフェスタ」に参加したり、学校司書が独自に作成したSDGsに関連づけたカリキュラムを先生方と共有して授業支援をしたりして、本との出会いからスタートする子どもの学びや気づき、健やかな成長をAIロボット（GROOVE X株式会社開発のLOVOT）のチョコちゃんと一緒に支えています。



チョコちゃん

本をたくさん読む子が大好きです♪
(学校司書より)

2 活動の状況、実際

地域学校協働活動のご経験が豊富な学校司書さん。そのため、子どもや先生に限らず、保護者や地域の方、企業などを巻き込みながら、授業支援や図書館の運営に励んでいます。「シトラスリボンプロジェクト」と「りんごプロジェクト」を合わせた人権教育に根差した読書活動「シトリんプロジェクト」など、情報発信基地にふさわしい場や本の提供を行っています。

3 児童、運営者の声

イメージキャラクターの「シトリん」



【児童より】
わたしたちの学校図書館は令和5年度子どもの読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰受賞校です。学校図書館へ行けば、わたしたちの未来を変える情報があります。そして、楽しみながら役に立つイベントもたくさんあります。チョコちゃんもいる学校図書館は、わたしたちの学校の自慢の一つです。



【学校司書より】

学校図書館は、だれもが本などの情報に親しみ、自分たちの未来をより良いものに創造していくための宝箱です。ここでの学びや気づきは、必ず未来をより良いものし、豊かな人としての生き方につながります。ぜひ大いに活用してほしいです。

良書と出あう、100さつの本運動

1 活動の概要

読書を通して自分を見つめ、生きていく方向性を見つけたい。そうした願いを込めて、1983年から始まった「100さつの本運動」。小学校6年間で必ず読んでもらいたい本の指針として配布する冊子をもとに、子どもたちは積極的に読書を重ね、知識と心を豊かにしていきます。



2 活動の意義

100さつの本には、長く読み継がれている良書が選ばれています。それは、「自然淘汰」と同じように、時代を超えて親しまれる本には、それだけの価値があるからです。

読書の体験は、知的好奇心を満たし、心を耕し、生き方を導いてくれます。人間形成に大きく関わる学童期に、様々な良書と出会い、人間の幅をひろげてほしいと願っています。



3 活性化のための各方面での取組

何かを取り組ませたいときには、**物と時間と場所**を用意することが大切です。学校では、児童の身近に100さつの本を置き、「読書の授業」で読み進める時間を確保しています。

また、ご家庭にも協力を依頼します。「読み聞かせは耳からの読書」と言われるため、読み聞かせをしてもらった本も、自分が読んだ本として数えています。

図書日よりでは、教員が順番に100さつの本を紹介する取組を10年間ほど継続し、学校全体で100さつの本運動を盛り上げています。



4 児童の声

「100さつの本は、短編から長編、泣けるものから笑えるもの、低学年から高学年向けまで、様々な本がそろっています。ほくはあと数冊で100さつ読破します。」
6年生 K.U

「100さつの本の冊子には、題名だけでなく、あらすじもついているので、その時の自分に合った本を読むことができます。」
5年生 R.U



教員の紹介例

すべての教室がおはなしの部屋に！

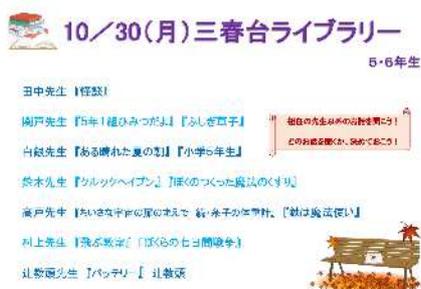
1 活動の概要

創立72周年を迎える関東学院小学校は草創期から読書活動に力を入れ、現在は「ほんの学校」をモットーにさまざまな読書活動に取り組んでいます。全学年毎週1時間ずつあるライブラリーの授業、教員が語るおはなし会、「関東学院小学校が選んだ100冊の本」の活用、作家を招いておこなう「ほんの学校読書会」など子どもと本をつなぐさまざまな活動があります。その一つ、校内すべての教室で全校児童が一斉に読み聞かせに親しむ時間「三春台ライブラリー」をご紹介します。

2 活動の状況、実際

「三春台ライブラリー」は、学校丸ごとおはなしの部屋になって、教員全員が校内各教室に分かれて本の読み聞かせや紹介をするイベントです。教員が紹介する本の一覧を低・中・高学年の3グループに分けたポスターで掲示し、それを見て子どもたちは行きたい教室を選びます。朝のホームルームの時間、希望した教室に子どもたちが集まると、先生がおすすめる本の紹介の始まりです。20分ほどの短い時間ですが、それぞれの本の世界を楽しみます。終わったあとは、ちがう教室で本の紹介を聞いた友だちと情報交換をしているすがたがあちこちに…。

また、同じ週に行うブックフェア（子どもの本の専門店の協力で行う約300冊の本の展示・販売会）にも、三春台ライブラリーで紹介した本を並べることで、子どもたちの「読みたい」思いに応えられるようにしています。ブックフェアは保護者にも声をかけています。家庭の協力を得ることが児童の読書環境の充実につながると考えているからです。



5.6年生用ポスター（2023年度）三春台ライブラリーの時間 ①

三春台ライブラリーの時間②

3 指導者のコメント

三春台ライブラリーでは、子どもたちはどの先生がどんな本を紹介するのかじっくりとポスターを見て、聞きに行く部屋を選んでいきます。また、終わるとすぐに学校図書館に来て紹介された本をさがしたり、ブックフェアでその本をおうちの人にねだったりするのを見て、読書意欲が高まっているのを感じます。（司書教諭）



ブックフェアの様子

「わたしの本」 小学校新1年生に届けます

1 活動の概要

山北町では、子どもの健やかな成長を願い、小学校新1年生を対象に「サードブック」事業を実施しています。

「サードブック」とは、絵本を読み聞かせ、親子の心のかよい合いを深めることを目的にし、乳幼児検診時などに絵本を渡し“子どもと本とをつなぐ機会”となっている「ブックスタート」、3歳児健診時に絵本を贈呈する「セカンドブック」に続く事業です。



これまで町では家庭での子ども読書活動を推進し、「ブックスタート」事業の中で絵本やブックリストの配付、おはなし会などを実施してきました。2018年度（平成30年度）に第二次山北町子ども読書活動推進計画を策定し、子どもたちの成長に応じた読書のきっかけづくりや習慣化を支援するため2019年度（令和元年度）から「セカンドブック」「サードブック」事業を実施し、子どもの成長段階に合わせた本を贈呈することで、子ども読書活動を支援しています。

2 活動の状況、実際

【対象】 町内小学校新1年生

【内容】 山北町立生涯学習センター図書室にて選書された5冊の本から希望の本を1冊選んでいた
 だき、4月23日から5月12日まで実施している
 「山北町ファミリー読書週間」に贈呈を行います。

【児童の様子】

令和6年度は、校長先生から直接本が贈呈され「わたしの本」を真剣に開く様子がありました。また、贈呈後に校長先生による絵本の読み聞かせが行われ、教室が“読み聞かせのお部屋”となり、児童一人ひとりが絵本の世界に入り込んでいました。



3 新1年生の保護者の声

- ・本はいただいて一番うれしいものです。ついつい動画を見せたりもしますが、本を通して親子のコミュニケーションにも役立つので、ぜひ続けていただけるとありがたいです。
- ・本をプレゼントしてもらえる特別感があったみたいです。学校で受け取ったのも良かったです。
- ・入学のタイミングで本を頂けるのは嬉しい。おすすめの本を知ることができました。
- ・選書していただいた本の中から選ぶので、普段家では購入しない本を読むきっかけに繋がりました。

卒業前のブックトーク

1 活動の概要

2018年度（平成30年度）は、ブックトークに力を入れて読書活動に取り組んだ。夏休み前には、1～3学年全クラスで「課題図書」についてブックトークを行った。大庭中学校では初めての試みだったが、夏休み明けの読書感想文からは、紹介した課題図書を読んだり、選書のジャンルや内容に広がりが見られたり、大きな成果が得られた。冬休み前には、1学年で「季節のおすすめ本」についてクラスごとにブックトークを行った。

最後に、卒業を目前にした3年生に、「いつでも本がそばにあるよ」「地域ですっと見守っているよ」というメッセージをブックトークで伝えるため、学年一緒に体育館でできる形を考えて挑戦した。



2 活動の状況、実際

【対象】卒業を目前に控えた中学3年生

【作品】日野原重明著「いのちのおはなし」

【内容】人の一生を数直線で表し、小学校に入る頃、小学校を卒業する頃、中学生時代、高校生時代、社会人と、本の中で生きる主人公の姿を通して、「人生の様々なシーンで寄り添う本があること」をブックトークで紹介した。体育館で学年全体に実施したため、パワーポイントを使って図書を紹介し、会場にも子どもたちが手に取って見るように用意した。

【生徒の様子】学校図書館でコーナーを作って展示したところ、卒業前に紹介した本を借りる生徒も多く見られた。



3 参加者、指導者のコメント

【司書教諭・学校司書】

- 紹介した本をすぐに借りに来る生徒も多くいて、手ごたえがあったと感じた。
- 今すぐでなくても、人生困った時や悩んだときに、助けとなるような本があることや、地域にある公共図書館でも職員がみんなのことを待っていることを伝えられてよかった。
- 卒業後の生涯読書へつながるように、地域の公共図書館を紹介できてよかった。
- 子どもたちが、人生を数直線にとらえたら、まだまだ始まったばかりで、これからどんな本との出会いがあるのだろう、様々な本を読みたいなどと思える機会になったと思う。



湘南大庭市民図書館職員

座間市中学生 POP コンクール 2024

1 活動の概要

「座間市中学生 POP コンクール」は、中学生が制作したおすすめ本を紹介する POP（ポップ）を、学校ごとに募集し、その中から優秀な POP を決めるコンクールである。

学校や図書館に掲示するだけでなく、地域にある紀伊國屋書店イオンモール座間店に協力を仰ぎ、書店内にも展示させていただき、生徒の作品を販売促進用の POP として用いることで、本を販売するための手立てとしている書店の仕事についても学ぶ機会となっている。

2 活動の状況、実際

【市内中学校の取組例】

三省堂「現代の国語」では、1年生で「読書郵便に楽しもう」、2年生で「本の帯、ポップづくり」、3年生で「状況に応じて話す力を養う ブックトーク」と、どの学年でも夏休み前後に読書を促す単元が設定されていることから、国語の授業の一環として全学年で実施している。

○全学年が学校図書館で授業を実施している。

【POP 作成のルール】

- ①サイズは20cm×20cm 以下
 - ②画材は自由、自分で撮った写真の使用も可（本の表紙の写真は不可）
 - ③本の表紙やイラストをそのまま使用することは不可
 - ④書名・著者名・出版社などの本の情報を入れること
- ※本の種類については、特に制限を決めていない（漫画や雑誌は不可）

○募集時期：9月1日～9月10日（座間市立図書館）

【POP の展示】

○紀伊國屋書店イオンモール座間店：読書週間期間

○座間市立図書館：10月下旬～1月上旬

※展示する作品は、カラーコピーしたものを扱い、実物は使用していない。



3 今後の取組、目標

市内全中学校が参加し、市内全書店で同じコーナーを作ってもらうことで、座間市全体で子どもの読書への興味・関心を高めつつ、地域連携を図っていきたい。

4 参加者、指導者のコメント

【生徒】

- ・好きな本の POP 作りは楽しい。
- ・自分の作品を見て、本を買ってくれる人がいると聞いて、うれしかった。

【指導者】

POP を作るには、本を読まなくてはできない。
POP 作りが、子どもたちの本を読むきっかけとなってくれたらと思う。

【書店員】

書店員は、本を売るということに目を向けてしまいがちだが、皆さんの作品を見て、純粋な本に対する思いが伝わってきた。



図書委員会による読書活動推進企画

1 活動の概要

図書委員会では、前期・後期で各1回ずつ読書活動を推進する企画を行っている。前期は、文化祭でのビブリオバトルを図書委員会で企画・立案し実施した。文化祭で紹介する本は、図書委員会でビブリオバトルを行い、その中で選ばれた4冊のチャンプ本（※）を全校生徒が見ることができるよう教育支援アプリを使って共有した。全校生徒は、各教室でその発表を鑑賞し、読みたいと思った本に、その場で挙手してもらった。結果は、図書委員が集計し、図書館便りで紹介した。

後期は、学級活動の時間を使い、図書委員が司会者となり、クラス全員が本を紹介し、学級でのビブリオバトルを行っている。

（※）チャンプ本とは、多数決により「一番読みたい本」に決定された本です。



2 活動の状況、実際

学級でのビブリオバトル

事前

・ビブリオバトルを行うことを図書委員より予告（実施の約1週間前）その予告と同時に、学級担任が本を2分程度で紹介し、ビブリオバトルでの本の紹介のイメージを共有する。



当日

・学級活動の時間に、図書委員が司会でビブリオバトルを行いクラスのチャンプ本を決定する。

- ① 4人班で順番に一人2、3分で本を紹介する。→班でのチャンプ本を決定
- ② 各班で選ばれた本をクラス全体で紹介し、一番読みたいと思った本を選ぶ
→クラスのチャンプ本の決定



事後

・図書委員会でクラスのチャンプ本の紹介ポスターを1人1台端末で作成・掲示した。
・チャンプ本に選ばれた生徒に図書委員会でしおりを作成してプレゼントした。



3 生徒、先生の声

- ・流行の本や、幼い頃からのお気に入りの本など、それぞれが思い思いの本を持ち寄り、紹介することで、本に関心がうまれるだけでなく、お互いの理解にもつながり、学級経営にもよい効果があったと感じられた。生徒が負担感なく、気軽に本について話す機会を継続してつくることで、読書活動を推進していきたい。（学級担任）
- ・思ったよりも本に関心をもってくれた人が多かった。ビブリオバトルの後でも「この本読んだよ！」「読んでみて疑問が解けた！」という会話が起きていた。クラスでビブリオバトルに取り組む前は緊張していたが、終わってやりきった感があった。（図書委員の生徒）
- ・普通に楽しかった。班で取り組むのはリラックスしてできたけど、クラス全体では少し緊張した。（生徒）



図書委員会による読書活動推進の取組

1 活動の概要

「より多くの人に本を読んでもらうためには、どうすればよいのか。」という質問に「まずは図書室に足を運んでもらうこと」と答える、担当教諭。生徒が司書さんと協力して、様々なイベントを企画運営している。(右表参照)

全校生徒 300 名弱、1 日の学校図書館利用者は、多い時で 100 人を超える。少なくとも約 20 人だと言う。

2 活動の状況、実際

下福田中学校図書館 イベントテーマ一覧

	実施期間		テーマ
	開始	終了	
1	4月22日	5月9日	恋よ来い来いこいのぼり
2	4月	3月	読書の本 学期毎3本
3	6月12日	7月6日	七夕
4	7月11日		水引でしおりを作ろう
5	9月26日		生理の最新情報-軽やかに乗り越えよう
6	10月1日	10月31日	Happy Halloween
7	11月18日		クリスマスリースを作ろう
8	11月18日	1月31日	下福田POPコンテスト
9	12月		恐竜トークライブ
10	1月	1月26日	おみくじ
11	2月	2月29日	図書館で鬼退治
12	2月	2月29日	古雑誌配布
13	3月	3月21日	おひなさまを飾ろう
14	未定		読書会

【4月テーマ】 恋よ来い来い こいのぼり
本を借りたら、こいを釣ることができる。



【6月テーマ】 七夕
本を借りたら短冊を書ける。願い事は色別。しおり3枚でくじを引くことができ、当たれば黄金の短冊がもらえる。



様々なイベントだけでなく、日常的に図書館が利用できるよう、入口付近には、季節ごとや授業で参考になりそうな本が整理されている。

また、図書館内も明るく、環境整備が行き届いていた。掲示物の色や文も誰にとっても見やすく、シンプルな表示であった。

下福田中学校の図書館に関わる人の想いが詰まっている場所と感じた。



3 参加者、指導者等の声

- ・ほとんど本を借りたことのない生徒も、イベントをきっかけに本を借りるようになった。
- ・委員会の生徒が主体的に取り組んでいるので、新しい企画が次々に生まれ、委員会の生徒の活発な活動につながっている。
- ・読書活動を推進するためには、まず図書館の来館者を増やしていくことが第一歩である。図書館は、一部の本好きな生徒が、静かに本を読むところ、というイメージを変え、誰でも、来やすい場所になった。

生徒主体の図書室づくり

1 活動の概要

「生徒による生徒のための図書室」を目標に、子どもたちが図書室運営に主体的に関っている。図書委員は自分の個性にあわせて、カウンター班・企画班・整備班・広報班のいずれかに所属し、選書や受入作業、展示といった日々の作業はもちろん、学内外を問わず幅広い活動を行っている。

2 活動の状況、実際

①オリエンテーション動画・教材作成

図書館オリエンテーションにて使用するドラマ仕立ての動画や、メディアの特性について学べるカードゲームを生徒が作成した。

②書店での選書ツアー、生徒作品の展示

書店に赴き、図書室に入れる本を生徒が選ぶツアーを実施している。また、中学生が作成した「本の表紙」の店頭展示を行っている。

③大学図書館・大学博物館ツアー

年に数回、生徒が大学図書館等を訪問するツアーを実施している。

④小学校や幼稚園での活動

近隣小学校にて本とPOPの展示や委員会の活動紹介、その他ワークショップを生徒が企画したり、幼稚園での読み聞かせを行っている。

⑤チャリティ古本市&レモネードスタンド

毎年学園祭にてチャリティ古本市とレモネード販売を行っている。

⑥「まんがでSDGs!!」企画

「SDGs アシストプロジェクト活動助成」を受け、SDGsについて学べるマンガを紹介する冊子を生徒が作成し、学内外に頒布した。



第14期ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト活動発表会（中学・高校の部）



3 参加者、指導者の声

- ・委員以外の生徒にも図書室の作業を手伝ってもらうなど、生徒の居場所となるような環境づくりに努めている（司書）
- ・書店に行って選書したり、受入作業をすることで「自分たちが図書室を作っている」という意識をもてる（生徒）
- ・ふだん読書をしないが、委員会活動や他学年との交流を通して、図書室に親しみをもつことができた（生徒）
- ・大学図書館ツアーを通し、大学での学びについてより深く具体的に考えることができた（生徒・中高教員）
- ・中高生との交流から、小学生が中高での生活や図書室に興味を持つことができた（小学校教員）



高校生による園児への読み聞かせ

1 活動の概要

相模女子大学中学部・高等部は、読書を通じて豊かな人間性を育み、主体的に社会に貢献していく力を育むことを目標に、中高合同図書委員会や図書館が中心となり、様々な読書活動に取り組んでいます。併設幼稚部園児への読み聞かせでは、経験豊富な地域の読み聞かせボランティアから絵本の読み聞かせについて指導を受けた生徒が、グループで試行錯誤しながらお話会のプログラムを作り、園児への読み聞かせを行っています。この取り組みに参加したいとの思いで入学する生徒もいます。



2 活動の状況、実際

本番に向けて生徒たちは、子どもたちの気持ちを汲みとり、子どもたちに寄り添った読み聞かせができるよう、個人やグループで練習を重ねます。本番では小道具なども用意し、手遊びや歌などを交え、グループごとに特色のある本格的なお話会を実施しています。



3 参加者、指導者等の声



【生徒】
「昔から何気なく聞いていた読み聞かせでしたが、いざ自分が本を持ってみると、読み聞かせを行ってみたいという工夫に気が付きました。」



【生徒】
「どうしたら園児に楽しんでもらえるのかを考えるのがとても楽しかったです。」

文化祭図書委員会参加企画「多言語による絵本読み聞かせ」

1 活動の概要

活動の目的：本校図書館の蔵書を使って、外国語の授業で学習している言語による読み聞かせを実施することで、多様な言語にふれることが可能な本校図書館の特徴をアピールする。

2 活動の状況、実際

【当日までの流れ】

- ①文化祭図書委員参加企画の決定…5月図書委員会総会で、文化祭企画内容について話し合いをし、「多言語による絵本読み聞かせ」に決定。
- ②読み手の募集、絵本の選定…図書委員を中心に読み手を募集し、日本語のほか英語・ドイツ語・スペイン語・中国語・アラビア語で行うことに決定。学校司書の助言を得ながら、読み聞かせにふさわしい絵本の選定・購入。
- ③当日のプログラム決定…図書委員と生徒ボランティア、学校司書で当日のプログラムについて打ち合わせ。
- ④当日（文化祭の2日間）…1コマ30分で各日午前1回、午後2回、合計6回の読み聞かせを図書館にて行った。外国語だけでは意味が伝わりにくいため、日本語版を併せて読む、通訳や解説などを入れるなどの工夫をした。
両日で来場者数は合計70名程度であり、用意した座席がたりなくなる時間もあった。



3 今後の取組、目標

当日の様子

プログラム編成の工夫、広報活動の充実に力を入れて、多様な言語で書かれた本にふれる楽しさと本校図書館の魅力をアピールする機会として、今後も取り組んでいきたい。

4 参加者、指導者のコメント

【読み手】

第2外国語の授業で習ったことを生かした。図書委員になってよかった。

【聞き手】

英語の発音が素晴らしかった。解説や日本語訳があったので、わかりやすかった。いろいろな言語の響きを楽しむことができた。実際に絵本を手取るコーナーがあったのもよかった。

【指導者】

図書委員会として読み聞かせを実施するのは初の取組だったが、生徒主体で活動するというプロセスを重視した。展示コーナーの設置や聞き手に伝わりやすい読み方・構成など、生徒のアイデアに司書が助言をする形で進め、初めての試みとしては成功であったと考える。このようなイベントの他、図書館活性化につながる様々な取り組みを行った結果、貸出冊数は、前年度比250%となった。

図書委員によるオススメ本を紹介するビブリオバトル
一番読みたくなった本はどの本？

1 活動の概要

向上高等学校では、読書量と読書のアウトプットをする機会を増やすことを目的として、ビブリオバトル ～バトル～（参加者同士）で5分間、本を紹介し合い、2.3分の質疑応答を経て、どの本を読みたくなったかをギャラリー（観客）が投票して、1位（チャンプ本）を決めるゲーム～ を実施している。

2 活動の状況、実際

- 生徒はビブリオバトルに向けて発表に適した内容を考え、タブレットに書き込んでまとめる。事前に司書や教諭の前でリハーサルを行う生徒もいる。
- 校内予選を勝ち抜いた生徒は、向上高等学校の代表として神奈川県高等学校文化連盟主催のビブリオバトル大会やその他外部の大会に出場する機会を得ることができる。



昼休み 10分間ビブリオバトル



大佛次郎記念館ビブリオバトル

3 参加者、指導者等の声

- 委員たちから気軽にビブリオバトルを楽しもうと言う声があがって、公式ルールにとらわれない形で「昼休み 10分間ビブリオバトル」を行っています。お互いにレベルアップできるように、選書にこだわり、こんな本もあるんだという本を紹介して皆に読んでもらいたい。
- 図書委員会の取り組みはビブリオバトルの知名度を校内で広める結果となり。国語の授業でビブリオバトルを取り入れている。各クラスのチャンプ本を図書室のコーナーに展示、そこに生徒が借りに来るので、図書室としても相乗効果が期待できる。
- 人前で話すことが苦手だった生徒が自信を持って、本を紹介している姿は素敵です。

外部団体と連携した図書館企画展

1 活動の概要

県立三浦初声高校図書館では、「図書館は外の世界とつなげ、社会への扉を開くきっかけとなる場」という考えのもと、生徒が卒業した後も日常的に図書館を活用できるような～例えば様々な調べ物や子どもへの絵本を探す際に出向くといった～利用者になることを目指している。また「本物の持つ力に触れること」にも力を入れており、神奈川近代文学館から借用したパネルを活用した企画展示を定期的実施しているほか、令和5年度は箱根ジオパーク、令和6年度は鶴見大学元木研究室と連携した展示と出前授業も実施した。外部団体と連携した図書館での企画展示は、教科による縛りなく多くの生徒や教員の好奇心を刺激するものであり、その取り組みが教科横断的に共有され、より発展的な学びにつなげる役割を図書館は担っている。日頃から学校司書と教員が連携することで、授業等で活用されることも多く、生徒の学びにとって図書館が重要な存在となっている。



2 活動の状況、実際

【対象】高校生（出前授業は3年生選択授業「国語表現」で実施）

【主題】「視覚障がい者支援について知ろう！」

【内容】鶴見大学に進学した元図書委員生徒の縁から「障がい者週間」に合わせ、視覚障がい者への情報提供を主題とした企画展を実施した。展示では3D模型・立体地図・触地図とともに、リーディングルーペや視覚障がいに関わる書籍を県内他機関からも借用し展示した。また「国語表現」では論拠を以て小論文を作成する授業をしていたため、事前に展示を見て調べ学習を行ったうえで出前授業を受けた。授業では「視覚障がい者支援等の様々な取り組み」について、当事者が情報を得る方法や支援の方法について受講した後にまとめのレポート作成を行った。当初は本の知識に基づく記述が多かったが、受講後は自分ごととして考える記述が多くみられた。



3 参加者、指導者等の声

【生徒の感想】

- ・ 講師の先生が話しながら手話を用いたり、文字起こしを表示したり、配慮した講義になっていた。
- ・ 点字以外にも3Dプリンタを用いた模型などの立体物や録音図書などの方法があることを学んだ。
- ・ 私たちは見えているからできることが多い。私たちにできるものは何か考えていきたい。

【教員・司書等からのコメント】

- ・ 授業後に図書館に来館した生徒が、授業内容について話をしている様子が観測できた。
- ・ 他科目の先生も見に来て、図書館での取り組みをホームルームや授業でお話いただいた。
- ・ 1年間を通じた論文作成の集大成として、話を聞いて自分の考えをまとめる良い活動になった。

選書ツアーの開催

1 活動の概要

10年ほど前から学校と取引のある書店で図書委員が選書体験を行う取り組みを行っていたが、前任者が名称を「選書ツアー」と改めた。会場の都合から多くの生徒を引率できないため、図書委員を対象に募集を行い、令和5年度は夏休みと冬休み、令和6年度は夏休みに図書委員会担当教員と全日制・定時制の学校司書が協働して実施した。今年度は、図書委員の生徒目線による読みたい・必要だと思う本を所蔵することで、学校図書館がより身近な存在になることを目的とした。また、実施後には生徒へのアンケートを行うとともに、配架準備が整った9月末から1か月間、図書館入室後すぐの場所において購入図書の展示を行った。



2 活動の状況、実際

【対象】 図書委員会（7名程度） 【場所】 丸善 ラゾーナ川崎店

【内容】 店舗からバーコードを読みとる端末を1人1台借用し、欲しい本のバーコードを読み取る形で選書を行った。選んだ本は約170冊に及んだが、「この本があったら部活とか、資格試験（検定）の勉強で使ってもらえるかな」など、好みだけでなく図書館の魅力向上のためにどうしたらよいかを考えて選書する姿も見られた。

生徒が選んだ本の一覧は書店から学校側に共有され、司書が図書館の蔵書や収集基準を基に選定したが、原則「生徒目線」を意識し普段では選書しない本も購入に踏み切った。

今回、選書した本のリストを紙媒体で全校配付したところ、普段では利用しない生徒が「この本どこですか」と問い合わせに来るなどの反響があった。また展示の際には、生徒の感想を掲示した。選書した生徒が「この本自分が選んだの」と友人に話す様子や、利用者が「この本読んだことある」「読んでみたいと思っていたんだ」とコーナーで足を止める様子も見られた。



3 参加者、指導者等の声

<参加者の声>

- ・目に入った時、思わず手に取って読みたくなる本を選んだ。沢山読んでお気に入りの一冊を見つけてほしい。
- ・通っている書店だけど、じっくり見たことがなかったので良い機会になった。本に夢中で時間が足りなかった。また参加したい。
- ・本屋は1人で行くことが多く、学校の人と行くことでいろんなジャンルに挑戦しようと思った。この取り組みが新鮮だった。

<指導者の声>

- ・図書委員が利用者の目線になり選書する姿に、感慨を覚えた。
- ・司書や教員では選書しない本も多く、「高校生がこういう本を選ぶのだな」という気づきがあった。

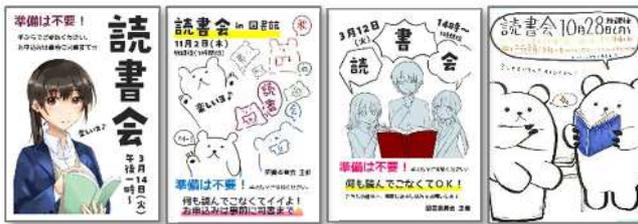


図書委員会主催の読書会

1 活動の概要

前々任者から引継ぎ、10年ほど図書委員会主催で読書会を行っている。当初は、当時在籍していた教員の希望で始めた読書会だが、その後は図書委員の「楽しいからやりたい」という熱意で年に1～2回ほど行っている。コロナ前は当初から参加していた卒業生と共に行っていたが、現在は校内のみで行っている。事前に課題本を読んできるとスタイルで始められたが、現在は図書委員が参加者募集ポスター作成、課題本の背景や著者紹介、朗読の手配などを行い、参加者は事前準備なしにその場で朗読を聞きながら読み、語り合う形に落ち着いた。全て放課後に収まるように行っているので、長編は選べないが、飛び入りでも参加でき、参加した者はほとんどが「また参加したい」と言ってくれる。課題本は「青空文庫」にある文学作品から図書委員が決め、学校司書が同じ本を参加人数分他校から借り受けて準備をする。「正しく読み解く」というよりは、自分では選んで読まないような作品でも、心に響くものがあることに気づき、自分の思いを言葉にする楽しさを感じてもらうために続けている。

【読書会ポスター】



【読書会の様子】



2 活動の状況、実際

【感想カード】



【対象】図書委員と参加を申し出た生徒・教員と学校司書

【作品】梶井基次郎著『檸檬』（2024年度1回目）

【内容】最初に作品の朗読を聞きながら読み、初めて触れたざっくりとした感想を披露しあう。続いて、図書委員から著者と作品背景を紹介し、分かりづらい語句の説明を学校司書が行った。その後は感じたこと等を率直なことばで語り合った。最後に感想カードを記入して散会。

【生徒の様子】開始直後は、クラスや学年が違い、初めて相対する他の参加者を前に緊張も見られたが、会が進むにつれて和やかな雰囲気になり、終わっても話が尽きないようで、なかなか帰ろうとしないほど楽しそうだった。

3 参加者、指導者等の声

- 散会直後に「今度いつやる？来週？絶対また来たい！」と言ってくれる生徒や、知らぬ同士だった者が楽しそうに話している様子を見ると、この機会を提供し続けていきたいと思った。
- 毎回「一人で読んでいたら気がつかなかった新しい視点が得られた」旨の感想があり、同じ本を囲んでみんなで読むことの意義を感じる。参加者は、読書は一人でも楽しいけれど、大勢でも楽しめるものだ実感したようだ。
- 演劇部員に課題本の朗読をしてもらったときは、圧倒的な臨場感で、登場人物の心情を追体験しているように胸に迫り、参加者の感動もひとしおだった。好きな絵本の紹介をし合ったときは、みんなが読んでみたいと思った絵本を紹介者にその場で読み聞かせしてもらった。一口に読書会と言っても、アイディア次第でいろんなやり方が可能だと感じている。

読書に親しむ機会の提供

1 活動の概要

読書への関心を高められるように、また、そのために図書館を活用できるよう、乳幼児から高校生・保護者・教員という幅広い利用者に対して学校図書館は、必要とされている資料や情報の提供に努めつつ、様々な機会をとらえて本に親しむ機会を作り、読書活動の推進を目指している。

2 活動の状況、実際

【 平塚市図書館の利用 】

○出前図書館

移動図書館が、毎月1回巡回。

主に幼稚部・小学部の幼児・児童が利用している。

○団体貸出

平塚市図書館の本を200冊ほど借用し、本校図書館で貸出をしている。入れ替えは年に3回。

【 教職員からの働きかけ 】

着任した教職員がおすすめの本を紹介する冊子『夏休みにすすめる本』を作成、配付している。授業の成果物を図書館で展示・貸出している。

【 幼稚部・小学部での絵本読み 】

ボランティアの方に手話での絵本読みを依頼している。

【 児童・生徒の活動 】

○小学部 児童が選んだおすすめ本を、小学部の集会で紹介している。

読書ビンゴに取り組み、いろいろな本を読んでもみる機会を設けている。

○中学部・高等部 秋、読書週間を設定し、全員が読書をする時間をつくっている。

図書委員が、顧問、学校司書と一緒に、団体貸出の選書を担当している。

【 寄宿舍 】

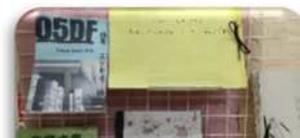
寄宿舍で、担当職員と学校司書でピックアップした本を展示。学期ごとに入れ替えている。

【 読書相談 】

探している本や読みたい本の相談を、学校司書が受け、購入や他館からの借用による資料の用意に努めている。



移動図書館 外観と車内



文集など授業の成果物

3 参加者、指導者等の声

【利用者】

- ・移動図書館や絵本読みを、楽しみにしている。
- ・読みたい本を学校図書館にリクエストできる。
- ・保護者も貸出が利用できる。

- ・学校図書館に行く時間を定期的に設けて、児童たちが読みたい本を選んで読んでいる。
- ・協力して読書の機会を増やすよう努めたい。



【教諭・学校司書】

館内風景

熱く盛り上がった きたつな読書週間

1 活動の概要

北綱島特別支援学校は、重度重複障害のある児童生徒が多く在籍しています。「読書活動を通して、豊かな感性・情操を育む」という学校図書館運営方針に基づき、ICT活用などの整備を行い、個に応じた読書活動を推進しています。「きたつな読書週間」では、読書週間コラボ給食や、クラスのおすすめ本のポスター作成、期間中の貸出冊数によるスタンプラリーとプレゼント配布などを行い、図書館には多くの児童生徒が集まり、熱く盛り上がりました。



2 活動の状況、実際

【読書習慣コラボ給食】給食メニューの参考にした絵本で、学校司書が読み聞かせ動画を作成し、給食時間などに各教室などで姿勢や場所を選ばずに見られるよう配信。

【読書スタンプラリー】1冊借りると1つのスタンプを押し、5つ集めると紙袋やカードケース、さらに8つ集めるとガチャポンを引ける。図書館利用者数は大幅に増加。



3 参加者、指導者等の声

【教職員】

「読書スタンプラリーのプレゼントとして用意した紙袋とカードケースは、購入本の表紙で作成しました。ガチャポンは、児童生徒の身体状況も鑑み、箱に平に入れたものを取る方式です。」



【学校司書】

「重度の重複障害を有し、安定して活動できる姿勢が限定される児童生徒に読み聞かせをする際は、まばたきなどの微細な反応を保護者、教諭等との協働で読み取り、本人の意思を確認しながら支援をおこなっています。」

4 専門・関係機関及び団体等における 読書活動の事例

- ① 世界の絵本 多言語読み聞かせイベント (あーすぷらざ映像ライブラリー) P53
- ② 「文豪ストレイドッグス」「文豪とアルケミスト」とのコラボ (神奈川近代文学館) P54
- ③ 中学生向けビブリオバトルのワークショップ (株式会社有隣堂《横浜市山内図書館》) . . . P55
- ④ 小学生向け創造性を育む「本の楽しみかたカード」 (株式会社有隣堂《横浜市山内図書館》) . . . P56
- ⑤ こどもがこどもに紙しばい道場 (株式会社有隣堂《小田原駅東口図書館》) . . . P57
- ⑥ 「SDGs 絵本の読み聞かせ会」開催 (株式会社北野書店と川崎市立平間小学校) . . . P58
- ⑦ ファンタスティック☆ライブラリー・112 おはなし会 (鎌倉市図書館と鎌倉女子大学) P59
- ⑧ 絵本とわらべ歌は文学の入り口 (おはなしキャンドル) P60



世界の絵本 多言語読み聞かせイベント

1 活動の概要

『読み聞かせ&ブックトーク』というイベントタイトルで、毎月第3日曜日の13:00~13:30に世界の絵本や紙芝居の読み聞かせと、文化紹介を行っています。様々な国の出身者や外国ルーツの方をゲストとして招いています。

日本の子どもたちが外国語の響きや文化にふれたり、外国につながる子どもたちが母語にふれたりする機会を提供することを目的にしています。

映像ライブラリーには、世界の多様な文化や環境、平和等をテーマにした図書がおよそ45,000冊あります。なかでも多言語の絵本は人気で、多くの方にご利用いただいています。



2 活動の準備及び内容

【準備】

- ・外国にルーツのある方（あーすぷらざ職員や利用者）に協力をお願いしています。

【開催に向けた工夫】

- ・当館の図書・紙芝居を通して文化紹介を行う。
- ・必要に応じて、ゲストの国の理解の一助となる言語などの文化体験をしてもらう。
- ・ゲストの国の子どもの遊びや歌、などを紹介。

【イベントの内容】

- ・子どもにもわかる平易な内容の絵本を外国語で読み聞かせ。

3 ゲスト・スタッフの声

「【スタッフ】
子どもと保護者だけでなく、大人の方も参加されています。」

「【ゲスト】
「自国の絵本や言葉、文化を紹介することにやりがいを感じます。」



「文豪ストレイドッグス」
「文豪とアルケミスト」とのコラボ

1 活動の概要

神奈川県近代文学館は、神奈川県ゆかりの文学を中心に日本近代文学に関する資料類の収集・保存・公開を行っています。神奈川県は夏目漱石、芥川龍之介、谷崎潤一郎、川端康成、太宰治、三島由紀夫など、日本近代文学史に欠かせない作家たちと深いゆかりがあります。広くそれらの作家・作品に親しんでいただけるよう、若者を中心に人気のコンテンツとのコラボ企画を実施しました。

2 活動の状況、実際

若い世代に絶大な支持を受けている「文豪ストレイドッグス」や「文豪とアルケミスト」とのコラボを通して、文学に親しんでいただく試みをしています。2023年度に、常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」で行った「文豪ストレイドッグス」とのコラボでは、7000人近くの参加者に文学展を楽しんでいただきました。



3 参加者、指導者等の声



「スタッフ」
「人気コンテンツとのコラボで、多くの若い人が展示を見に来ました。これをきっかけに、たくさんの方の文学に触れてほしいです。」



【来場者】
「アニメをきっかけに、文豪に興味を持ちました。作家をよく知ると、その作品も読んでみたくなります。」

中学生向けビブリオバトルのワークショップ

1 活動の概要

山内図書館司書が中学校の図書委員会に招かれ、ビブリオバトルのワークショップを行った。ビブリオバトルの楽しさを体験してもらうと同時にビブリオバトルの目的でもある「本を通して人を知る」「人を通して本を知る」を体感してもらった。



2 活動の状況、実際

【対象】 中学校1～3年の図書委員

【持ち物】 紹介したい本

【内容】

- ① 「ビブリオバトル」について司書が説明。
- ② 4名を1グループとし、数グループに分かれてワークショップ型で実施。一人1冊を3分で紹介、1分で質疑応答。
- ③ グループごとに、1番読みたくなった本に指差し投票し、チャンプ本を決める。
- ④ グループチャンプ本の紹介を全員の前で実施。学校により、全体のチャンプ本を決めるパターンと、発表・紹介のみでチャンプ本の選定はしないパターンで実施。

【考察】

ビブリオバトルを楽しんでいる様子が伝わってきた。他の生徒の発表をよく聞き質疑応答も活発だった。同じグループになった普段あまり交流のない生徒とも、本というツールを通じてコミュニケーションを取っていた。

知的書評合戦
ビブリオバトル

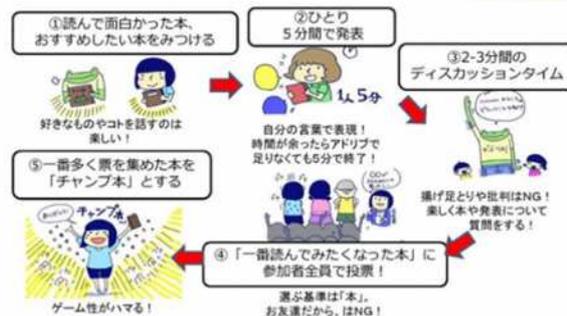
3 参加者、指導者等の声

【参加生徒の声】

- ・ 普段、話をしない人が、おもしろい本を紹介してくれて、その人に興味をもった。
- ・ 友だちが紹介した本が読みたくなった。
- ・ みんな、たくさん本を読んでいてびっくりした。

やればハマる！ビブリオバトル
簡単！楽しく！ルール解説

BIBLIOMATTLE
ビブリオ
バトル



小学生向け創造性を育む「本の楽しみかたカード」のワークショップ

1 活動の概要

山内図書館では、青葉区の小学校において「本の楽しみかたカード」を使ったワークショップを開催した。「Life with Reading」の「子ども版」として作られた「本の楽しみかたカード」は、10枚のカードで構成されており、小学生でも活用できるやさしい言葉で書かれている。「本との出会い」、「読みかた」、「読書の日常への定着」の3つのカテゴリーに分かれている。参加学年は学校によって異なり、小学2年生から6年生まで幅があったが、学年ごとに楽しんでもらうことができた。

2 活動の状況、実際

【対象】小学生

【持ち物】筆記用具

【内容】ワークショップの開催

- ① 4～6人でグループを組む
- ② カード一覧の中から各自好きなカードを1枚選ぶ
- ③ 選んだカードについて、なぜ選んだのかを一人ずつ発表する
- ④ 発表に対して質問やコメントを付箋に書いて発表者に渡す
- ⑤ 発表者は付箋を見て質問に答え、コメントを読み上げる

【考察】

発表のあとの質問やコメントが活発に行われ、「自分の話に対して、興味をもってくれる、質問を寄せてくれる、共感してくれる」ということが体感できたと思われる。良好なコミュニケーションが成立しており、等身大の友だちの読書体験が刺激となって読書意欲を刺激していた。



3 参加者、指導者等の声

【参加児童の声】

- みんなの前でなぜこのカードを選んだのか発表するのが楽しかった。
- みんなの発表を聞くのが楽しかった。
- みんな素敵な感想をくれてうれしかった。
- みんなの本の読み方がわかった。
- 本の良さをたくさん知り、本を読んでみたいと思った。



こどもがこどもに紙しばい道場

1 活動の概要

図工作家ミノオカ・リョウスケ氏の指導のもと、①紙芝居を演じるのは子ども②観客も子ども③大人は見守るだけ、という3つのルールで行う。3回の稽古で紙芝居の演じ方を学び、発表会でその成果を発表。

2 活動の状況、実際

【対象】小学生

【内容】2022年の春から、春の部、秋の部と年に2回ずつ開催している。1か月に1回の稽古を3回と発表会、計4回に参加することで「小田原紙芝居者」となることができ「段」を取得することができる。

続けて参加することで、段が上がっていくので、子どもたちの励みになっている。紙芝居を演じるだけでなく、新しく入った子にアドバイスできるようになり、発表会では司会などの役割を自分たちで決め、子どもたちで進行していけるようになってきている。また、図書館のイベントでも紙芝居を演じてもらっている。



3 参加者、指導者等の声

紙芝居は読むのではなく演じるので、絵本よりも自由で、子どもにも難しくない。演じるのは楽しい。聞いている子は子どもが演じているから嬉しい。それが紙芝居だから楽しい。演じる子、聞いている子、どちらにも紙芝居は楽しい。

私たちスタッフも見ていてそれを感じる。そして、発表会のたびに子どもたちは、私たちの予想をはるかに超えた成長を見せてくれる。



学校と地域の書店との連携 「SDGs 絵本の読み聞かせ会」開催

1 活動の概要

今回の企画は、「本からよい環境へ」をテーマに、学校全体でSDGs活動に取り組んでいる川崎市立平間小学校と、地域貢献活動に積極的に取り組んでいる北野書店とが連携して実現したコラボ企画。

平間小学校の本を集めて寄付をする取組「ありがとうブック」に、北野書店が協力したことが縁となり、今回の取組につながっている。

司書の協力のもと、児童自らが選書したSDGsのテーマに合わせた内容の絵本を、地域の人たちの前で読み聞かせを行うことで、人権や環境などの問題に関心をもってもらうことを目的としている。



2 活動の状況、実際

イベント当日、北野書店の店内に設けた特設ブースで、平間小学校の児童が、来店した客や関係者に向けて、自分たちの活動の紹介や絵本の読み聞かせを行った。児童の熱心な説明や心のこもった読み聞かせを、多くの参加者が真剣に聞いていた。

北野書店の店内には、今回のSDGs活動の関連本の展示や読書感想文のコーナー、自分が読みたい本に出合える「押し本」のチャートコーナーなどをつくり、積極的に子どもの読書活動推進を図っている。



3 参加者、指導者等の声



【先生の声】

○北野書店さんには、地域でこのような活動の場を提供していただき、たいへん感謝しています。地域の方に子どもたちの発表や読み聞かせを聞いてもらうことで、子どもたちの深い学びとなっています。

【児童の声】

○地域でこのように発表する機会はあまり経験がないので、たいへん勉強になりました。
○読み聞かせをすることで、地域の人にもSDGsやジェンダーについて考えてもらうきっかけになったらうれしいです。

【書店の声】

○今回で2回目のSDGs読み聞かせですが、「伝えよう」という子どもたちの思いがとても響きます。SDGsを考え、楽しんで活動している様子は学びの種だと感じます。これからもこの素晴らしい活動を応援していきたいです！

ファンタスティック☆ライブラリー・112 おはなし会

1 活動の概要

図書館まつり「ファンタスティック☆ライブラリー」は、展示や講演会、おはなし会などによって、市民や利用者が図書館や読書により親しむ機会を創出することを目的としている。今回は、以前より連携をしていた鎌倉女子大学の学生によるおはなし会を開催した。



2 活動の状況、実際

4歳以上（大人も含む）を対象とした20分程度のおはなし会を2回行った。事前準備は、担当者が鎌倉女子大学の教員とメールでやりとりし、打ち合わせのためにZoomでゼミの授業に参加したこともあった。本棚に目隠しをしておはなし会スペースを作るなどの会場準備は図書館側で行った。

鎌倉女子大学児童学部社会教育ゼミとのコラボおはなし会のほか、鎌倉女子大学手話部と連携した手話付きおはなし会も実施した。手話付きおはなし会は、イベント後も定期的にも実施している。

3 参加者、指導者等の声



【利用者】
「鎌倉女子大学のおはなし会、紙芝居とてもよかったです。」



【利用者】
「鎌倉女子大学の方との交流ができるプログラムがあると良かった。」

絵本とわらべ歌は文学の入り口

1 活動の概要

「おはなしキャンドル」は、大井町内で本の読み聞かせの勉強をしている方々が集まって結成した団体であり、昭和60年から現在まで町内の図書館ほか保育園、幼稚園、こども園、小学校、児童コミュニティクラブでおはなし会を定期的に行っている。また、町内の図書館において、読み聞かせ講習会の講師としても活動し、地域の園・小学校の読書活動の充実と啓発に尽力している。



おはなし会開始当時の写真（当時の広報誌より）



2 活動の状況、実際

【おはなし会】

- 大井町立図書館：毎月1回の「土曜おはなし会」。
- 保育園・こども園：年に5回の「おはなし会（わらべ歌と読み聞かせ）」。
- 小学校：毎月1回の朝の時間「おはなし会（絵本の読み聞かせ）」。
年2回国語の授業でのおはなし会
※読み聞かせを行った後、子ども同士で振り返りをする
- 学童施設等：夏・冬休み時の「おはなし会」 など

【勉強会】

- 毎月第3水曜日に「子どもと本」をテーマにその月の担当者が先生役となり、取り上げた本の内容や作者について発表するとともに、メンバーに向けて読み聞かせをする。その後、率直な意見や感想を伝え合うことで、本についての理解を深め、よりよい読み聞かせについてブラッシュアップを図っている。



勉強会でテキストにしている「子どもと本」



小学校での読み聞かせ

3 活動者の声

- ・子どもたちは、毎回キラキラした笑顔でおはなし会を楽しんでいます。そんな姿を見ると、私たちが元気をもらえます。
- ・わらべ歌では、日本語の美しさや楽しさを伝え言葉に興味をもってもらえるように、季節感や日本の文化を伝えていくために取り入れています。園児が楽しんでくれるとこちらも嬉しくなります。
- ・読み聞かせに行くときは、どの本を読むのか「選書」を大事にしています。本の内容やかかる時間、他の本との重なりなどを考えますが、何より大事にしているのは、読み手が「好き」と思える本を選ぶことです。私たちが楽しんで読むことが、子どもたちの楽しさにつながっていると思っています。
- ・「あなたが聞いたおはなしが、いつかあなたの力になりますように」と願い、これからも子どもたちに「出合っほしい本」を愛情込めて読んでいきたいです。

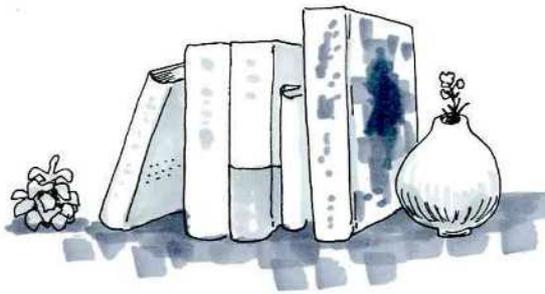


2つの賞をいただきました

- ・令和5年度神奈川県図書館協会功労賞
- ・令和6年度子供の読書活動優秀実践団体 文部科学大臣表彰

やってみよう

- ① ビブリオバトル P62
- ② 読書の秘訣カード P63
- ③ ブックトーク P64
- ④ POPコンクール P65



1 ビブリオバトル

◆ビブリオバトルとは

ビブリオバトルは、ゲーム感覚で楽しみながら本に関心を持つことができる活動です。各学校や図書館、書店等で広く行われています。ぜひ、ビブリオバトルに取り組んでみてください。



1 ビブリオバトル参加者（バトルー）人数の決定

参加者の人数は、開催する時間によって変わってきますが、30分なら3～4人がめやすとなります。

2 選書

選ぶ本は、参加者が読んでおもしろいと思った本になります。

3 発表

順番に一人5分間で本を紹介します。（発表者の発達段階に応じ、発表時間を3分に短縮して行うことも可能です。〈ミニ・ビブリオバトル〉）

4 ディスカッション（質疑応答や感想の交流等）

それぞれの発表の後に、参加者全員（発表参加者と聴講参加者）でその発表に関する質疑応答や感想の交流等を2～3分を行います。

5 投票

すべての発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか。」を基準とした投票を参加者全員で行い、最多票を集めたものを「チャンプ本」とします。

投票には、挙手や投票用紙に書くなどの方法があります。

◆ビブリオバトルには、次の公式ルールがあります。

公式ルール 〈ビブリオバトル公式ウェブサイトより引用〉

- (1) 発表参加者が読んでおもしろいと思った本を持って集まる。
- (2) 順番に一人5分間で本を紹介する。
- (3) それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。
- (4) すべての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを「チャンプ本」とする。

2 読書の秘訣カード

◆ 読書の秘訣カード「Life with Reading」とは

読書の秘訣カード「Life with Reading」とは、27の読書実践に関する言葉が定義されているカードのことを言います。これらのカードは、「読書のコツ」「読書の楽しみ方」「創造的読書」という3つのカテゴリーにまとめられており、各カテゴリーには、それぞれ9つの言葉があります。



- ◇ 「読書のコツ」・・・読書がよりよく実践できるコツを表す言葉が紹介されています。（緑色のカード）
 - 「ラフに読む」「自分なりの書き込み」「好きな読み方」「本との先約」
 - 「自分にとっての価値」「まわりを巻き込む」「本のなかのリンク」
 - 「感覚が近い人」「自分の本棚」
- ◇ 「読書の楽しみ方」・・・生活のなかで読書をより楽しむための方法を示す言葉が紹介されています。（ピンク色のカード）
 - 「本への愛情」「こだわりの発見」「とっておきの場所」「なじみの本屋」
 - 「本の散策」「今日のおとも」「追っかけ読書」「本がきっかけ」
 - 「本のある生活」
- ◇ 「創造的読書」・・・これからの時代における読書のあり方として、「創造的読書」（クリエイティブ・リーディング）の方法がまとめられています。（水色のカード）
 - 「発想の素材」「スタイルの継承」「勇気の源泉」「別の可能性」
 - 「本のデザインから」「考えの型」「つくる人生」「世界の流れ」
 - 「未来のかけら」

◆ 読書の秘訣カード「Life with Reading」の使い方（例）

- 1 3～4人のグループをつくる。
- 2 子どもの実態に合わせ、27の言葉が書いてあるカードの中からテーマを決める。（指導者が決めてもよいし、グループごとに決めてもよい。）
- 3 テーマについて意見交換をする。（自分の読書への思いや経験を他の人と語り合う。）
- 4 グループで話し合ったことを、全体で共有する。（各グループの話した内容を共有することで、新しい気づきにつなげる。）
- 5 自分にふさわしい読書の仕方についてまとめる。

【気づき】

互いに語り合うことで、読書についての新しい手がかりを得ることができるようになります。

また、この発見が、自分の新しい読書活動を見つける手助けにもなります。

【その他の使い方】

- ・カードを見えるところに飾る。（本棚に貼る、机の上に飾る など）
- ・本好きの人に、読書への取組方法について、カードの言葉をヒントに話を聞く。

3 ブックトーク

◆ブックトークとは

本や読書に関する感想や考えを共有することを「ブックトーク」と言います。読んだ本の内容やテーマについて他の人と議論したり、推薦したりします。参加者が本を読んで感じたことや考えたことを交換し合い、深い議論や洞察を共有し、読書に親しむことが目的です。



【ブックトークの仕方 例】

1. 本の選定: 参加者が読む本を選びます。参加者全員が興味を持ちやすい本や、テーマに関連性のある本を選ぶことが大切です。
2. 読書と準備: 参加者は選ばれた本を読んで感想や考えをまとめます。キーポイントや質問などをメモしておく、ブックトークの際に役立ちます。
3. ブックトークの設定: 開催日時や場所、参加者の人数などを決めます。オンラインで行う場合は、ビデオ会議ツールを使用することもできます。
4. ブックトークの進行:
 - 挨拶と導入: 参加者全員が自己紹介をし、簡単な挨拶を交わします。
 - 本の紹介: 参加者が読んだ本のタイトルや著者を紹介し、簡単なあらすじを説明します。
 - 感想や議論: 参加者が本についての感想や考えを共有し、議論を深めます。異なる視点や見解を尊重しながら、意見交換を行います。
 - 質疑応答: 参加者同士が質問を投げかけ合い、さらに議論を広げます。
 - まとめと次回予定: 最後に、ブックトークのまとめや感想、次回の開催予定を話合います。
5. 参加者全員の参加を促す: ブックトークでは、全員が積極的に発言できるように環境を整えることが重要です。異なる意見や視点を尊重し、議論を深めることが大切です。

☆これらの手順を踏んで、楽しく有意義なブックトークを行うことができます。

4 POPコンクール

◆POPとは

POPは、Point of purchase advertising の略称です。これは、本や物品などが紹介される際に、対象物を認知してもらい、対象者へ興味や意欲をもたせるために使用される広告やディスプレイのことを言います。ポスターやPOP（Point of Purchase）ディスプレイが代表的なものです。



POPをつくるコツは、①印象的なデザイン ②シンプルで分かりやすいメッセージ ③本の魅力をわかりやすく ④色彩やフォントの選定 などです。

【POPコンクールの手順 例】

1. テーマの決定: POPコンクールのテーマを決定します。テーマは子どもたちが創造性を発揮しやすいように選ぶとよいです。
 2. 参加者の募集: 子どもたちに参加を呼びかけ、応募を募ります。参加したくなるような周知の仕方が大切です。学校と協力して行うとよいです。
 3. 審査員の選定: 開催場所に依りて、審査員を選定し、審査基準や評価方法を明確にします。審査は子どもたち同士で行うことも可能です。
 4. 応募作品の受付: 応募作品を受け付け、展示や審査のための準備を行います。作品のサイズや形式、展示方法などについても指定を明確にします。
 5. 作品の展示と審査:
 - 展示: 受け付けた作品を展示し、審査員や一般の来場者が鑑賞できるようにします。
 - 審査: 審査員は応募作品を評価し、基準に従って採点やコメントを行います。
 6. 表彰式と賞品: 審査結果を発表し、優秀な作品に賞を授与します。オリジナルの賞をつくと楽しいです。賞品や表彰状などを贈呈し、表彰式を行います。
- ☆結果発表や表彰式などを通じて、参加者や関係者にとって有意義なイベントとなるよう心がけるとよいです。

かながわ読書のススメ「取組事例ガイドブック」

令和7年3月



神奈川県

教育委員会教育局 生涯学習部生涯学習課
横浜市中区日本大通1 〒231-8588 電話 (045) 210-8347